KAWAI

DIGITAL PIANO
PV35

取扱説明書

■ごあいさつ

このたびはカワイＰＶ３５をお求めいただきましてまことにありがとうございます。

カワイＰＶ３５は、最新のエレクトロニクス技術と、カワイが長年に渡って培った楽器作りのノウハウから生まれた画期的な電子鍵盤楽器です。

３２種類のリズム（内蔵２４リズム＋ディスク８リズム）、鍵盤で和音を押さえるだけでベースやコードの自動演奏をするオート・アカンパニメント、指一本で多彩なアドリブ演奏が楽しめるワン・フィンガー・アドリブ、単音で弾いた曲に和音を重ねるオート・メロディー・コード、さらに、これらのリズムと伴奏パターンを８種類に変化させるアレンジメント・エクスパンダー・ダイアルなど充実した伴奏機能を装備し、幅広い音楽ジャンルにおいて、本格的な演奏を楽しむことができます。

また、フロッピー・ディスク・ドライブを搭載していますので、１６トラック多重録音や、録音した曲を１００曲まで１枚のフロッピー・ディスクに記録・保管することができます。

本機は、電子楽器の統一規格であるＭＩＤＩ機能も装備しており、ＭＩＤＩ端子の付いた他の楽器とのアンサンブルなど、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

本機の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後もこの取扱説明書を保管し、わからないことが出てきたときなどにご利用ください。

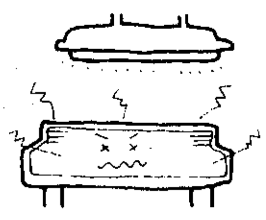
■使用上の注意

● 電源について

電源は必ず家庭用100Vのコンセントをご使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。

● 雑音について

モーターやネオンサイン、蛍光燈などが近くにありますと雑音の原因となりますので、本体の設置位置を変えてください。

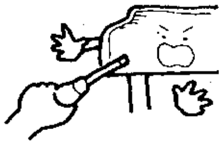


● 電源プラグ、コードの取り扱い

電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、ご注意ください。
また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因となりますのでご注意ください。

● 故障などの注意

内部を開けて部品を取り外したり、改造したりすることは大変危険ですので絶対にやめてください。故障したと思われたときは、お求めの販売店、もしくはお近くのカワイまでご連絡ください。



● 使用後のご注意

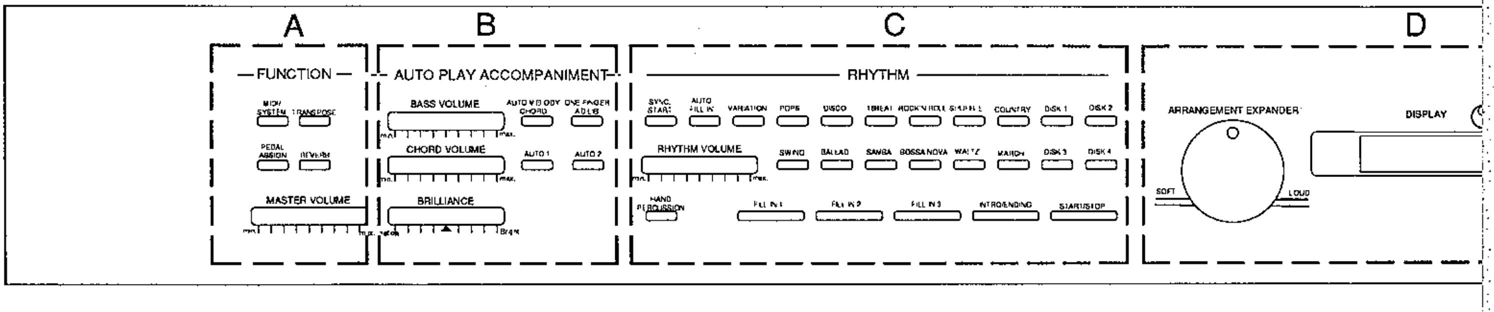
使用された後は、必ず電源を切ってください。電源を入れたままにしておくと思わぬトラブルの原因となります。
また、長時間ご使用にならない場合は、プラグをコンセントから抜いておいてください。

● お手入れのご注意

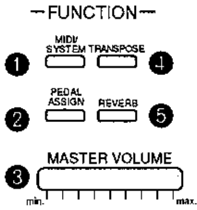
アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使わないでください。
外装のお手入れは、中性洗剤の入った水を多少含ませた柔らかな布をお使いください。鍵盤のお手入れは、水を含ませた柔らかな布をお使いください。

各部の名称と働き

■フロント・パネル



■A. ファンクション・ブロック



❶ MIDI/SYSTEM（ミディ／システム）ボタン
チューニングや MIDI の設定をします。

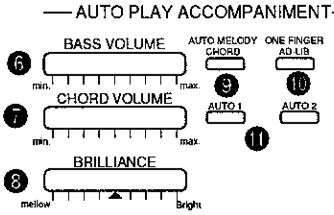
❷ PEDAL ASSIGN（ペダル・アサイン）ボタン
レフト・ペダルとダンパーペダルにいろいろな機能を割り当てます。

❸ MASTER VOLUME（マスター・ボリューム）レバー
PV35全体の音量を調節します。

❹ TRANSPOSE（トランスポーズ）ボタン
音程を半音単位で移調します。

❺ REVERB（リバーブ）ボタン
トーンに残響を付けます。7種類のリバーブから選ぶことができます。

■B. オート・プレイ・アカンパニメント・ブロック



❻ BASS VOLUME（ベース・ボリューム）レバー
ベースの音量を調節します。

❼ CHORD VOLUME（コード・ボリューム）レバー
コードの音量を調節します。

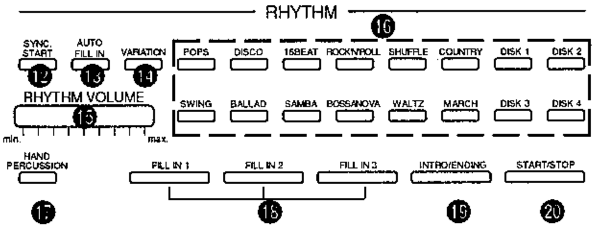
❽ BRILLIANCE（ブリリアンス）レバー
PV35 全体の音質を調節します。

❾ AUTO MELODY CHORD（オート・メロディー・コード）ボタン
単音で弾いたメロディーに和音を重ねます。

❿ ONE FINGER AD-LIB（ワン・フィンガー・アドリブ）ボタン
鍵盤を指一本で押さえるだけで、リズムに合ったアドリブを演奏します。

⓫ AUTO 1（オート1）、AUTO 2（オート2）ボタン
自動伴奏を演奏するときに使用します。

■C. リズム・ブロック



⓬ SYNC. START（シンクロ・スタート）ボタン
鍵盤を弾くと同時にリズムがスタートします。

⓭ AUTO FILL IN（オート・フィルイン）ボタン
4小節ごとに自動的にフィルイン・パターンを演奏させます。

⓮ VARIATION（バリエーション）ボタン
プリセット・リズムのバリエーション・パターンやディスク・リズムの5～8を演奏させます。

⓯ RHYTHM VOLUME（リズム・ボリューム）レバー
リズムの音量を調節します。

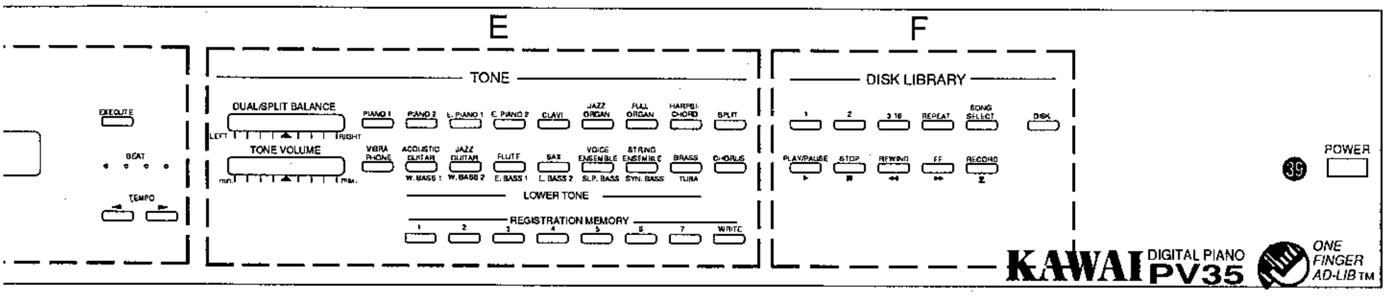
⓰ リズム・セレクト・ボタン
PV35に内蔵されているリズムやディスク・リズムの選択をします。

⓱ HAND PERCUSSION（ハンド・パーカッション）ボタン
鍵盤を弾いてリズム楽器を演奏できます。

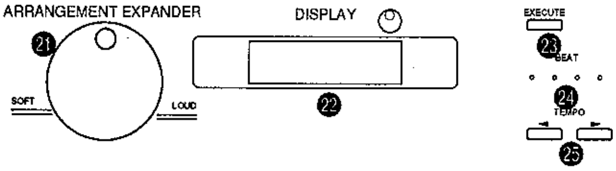
⓲ FILL IN 1（フィルイン1）～ FILL IN 3（フィルイン3）ボタン
リズムや自動伴奏のフィルイン・パターンが演奏されます。

⓳ INTRO/ENDING（イントロ/エンディング）ボタン
リズムがストップしているときは、イントロ・パターンが演奏されます。リズムの演奏中のときは、エンディング・パターンが演奏され、リズムがストップします。

⓴ START/STOP（スタート/ストップ）ボタン
このボタンを押すと、リズムがスタートし、もう一度押すとストップします。



■D. A・Eダイアル、ディスプレイ・ブロック



㉑ ARRANGEMENT EXPANDER（アレンジメント・エクスパンダー）ダイアル
リズムや自動伴奏のパターンを変化させます。また、各モードのバリュー（値）を設定します。

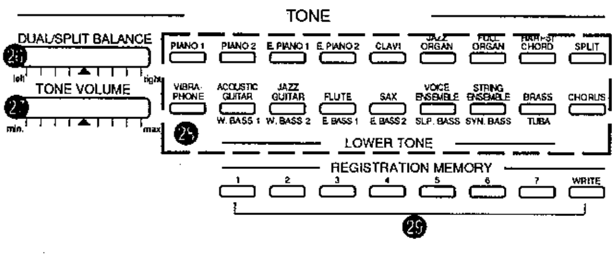
㉒ DISPLAY（ディスプレイ）
リズム、ソングの名称や、各モードの設定値を表示します。

㉓ EXECUTE（エグゼキュート）ボタン
各モードを選択するときや、設定を実行します。

㉔ BEAT（ビート）ランプ
設定されているリズムのテンポに合わせ、1拍ごとに左から右に点灯します。

㉕ テンポ・ボタン
リズムのテンポを調節します。
また、各モードでのバリューを設定します。

■E. トーン・セレクト・ブロック



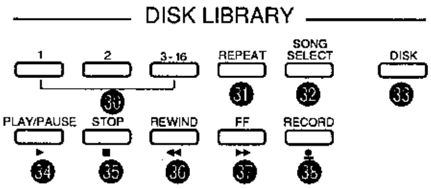
㉖ DUAL/SPLIT（デュアル/スプリット・バランス）レバー
デュアル・モードやスプリット・モード時にトーンの音量のバランスを調節します。

㉗ TONE VOLUME（トーン・ボリューム）レバー
トーンの音量を調節します。

㉘ トーン・セレクト・ボタン
音色を選択します。LOWER TONE と表示されているボタンの音色は、スプリット・モード時のロワー鍵盤のトーンの設定にも使用します。

㉙ REGISTRATION MEMORY（レジストレーション・メモリー）ボタン
トーン、リズムやボリュームなどの状態の組み合わせを記憶し、ワンタッチで呼び出します。

■F. ディスク・ライブラリー・ブロック



㉚ トラック・ボタン
左手と右手などのパート別や、音色別に録音・再生を行うときにトラックを選択します。

㉛ REPEAT（リピート）ボタン
曲（ソング）を繰り返し再生します。

㉜ SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタン
ディスク内のソングを選曲します。

㉝ DISK（ディスク）ボタン
ディスク・モードの設定をします。

㉞ PLAY/PAUSE（プレイ／ポーズ）ボタン
ソングの再生や一時停止をします。

㉟ STOP（ストップ）ボタン
ソングの再生を停止します。

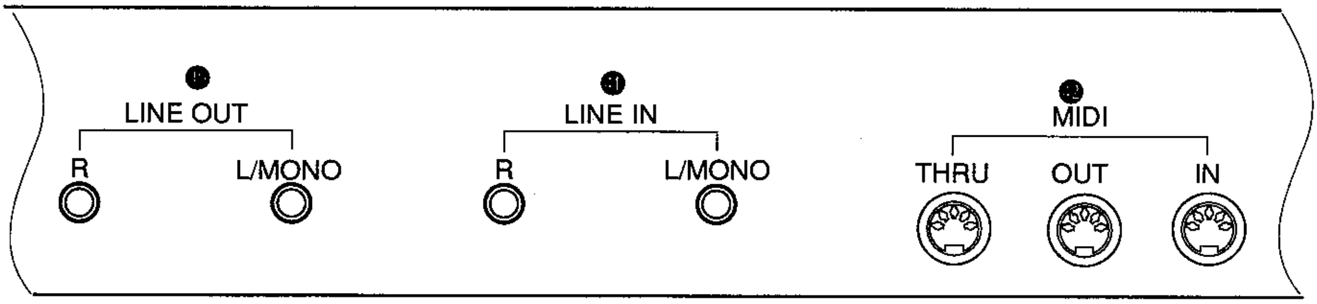
㊱ REWIND（早戻し）ボタン
ソングを早戻しします。

㊲ FF（早送り）ボタン
ソングを早送りします。

㊳ RECORD（レコード）ボタン
ソングを録音します。

㊴ POWER（パワー）スイッチ
電源をオン／オフします。

■リアー（背面）パネル

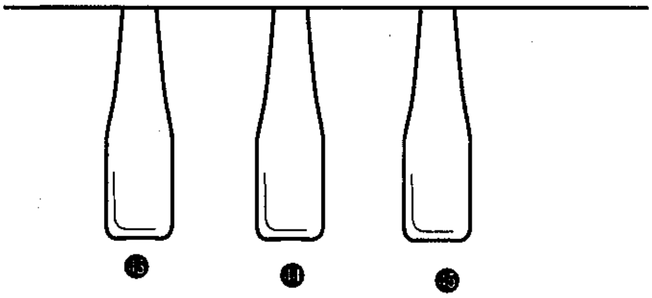


⑩ LINE OUT（ライン出力端子）
本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオなど）で聴いたり、テープ・デッキなどに録音する場合に使用する出力端子です。モノラルの信号はL/MONO端子から出力します。

⑪ LINE IN（ライン入力端子）
他の電子楽器や音響機器などの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。モノラル信号はL/MONO端子に入力してください。

⑫ MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している他の楽器などに接続する端子です。

■ペダル（スタンド下部）



⑬ レフト・ペダル
ペダル・アサイン（56ページ）でいろいろな機能を割り当てることができます。

⑭ ソステヌート・ペダル
鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、その音だけにサステインがかかります。

⑮ ダンパー・ペダル
鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサステインがかかります。アッパー／ロワー鍵盤を別々にコントロールすることができます。

■目　次

各部の名称と働き 1

入門編　簡単に楽しむために

第1章　音を出してみましょう 4

第2章　リズム伴奏を演奏してみましょう 5

1. リズムを鳴らしてみましょう 5
2. 自動伴奏を加えてみましょう（オート・アカンパニメント） 9
3. パターンにメリハリをつけてみましょう
　（アレンジメント・エクスパンダーダイアル） 11
4. アドリブを楽しみましょう（ワン・フィンガー・アドリブ） 12
   1. アドリブ・フレーズを聴いてみましょう 12
   2. コード進行に合わせて弾いてみましょう 13
5. メロディーに和音をつけましょう（オート・メロディー・コード） 14
6. リズム・セクションを演奏してみましょう（ハンド・パーカッション） 15

応用編　より楽しく使うために

第1章　2つの音色で演奏してみましょう 18

1. 音色を重ねて演奏してみましょう（デュアル・モード） 18
2. 右手と左手を別々の音色で演奏してみましょう（スプリット・モード） 19

第2章　ディスクを使ってみましょう 21

1. ディスクの演奏を聴いてみましょう 23
   1. ソングを聴いてみましょう 23
   2. ディスク・リズムを聴いてみましょう 25
2. 演奏を録音してみましょう（ディスク・ライブラリー） 27
   1. 録音の準備（ディスクのフォーマット） 27
   2. 録音してみましょう 29
   3. 再生してみましょう 31
3. 左手と右手を別々に録音してみましょう 32
   1. 右手パートの録音 32
   2. 左手パートの録音 33
   3. さあ、今録音した曲を聴いてみましょう 34
4. 違う音色で多重録音してみましょう 35
5. MIDI 情報を録音してみましょう（マルチ・レック） 37
6. トラック別に再生してみましょう 38
7. その他のディスク操作について 39
   1. リスト（LIST） 39
   2. ネーム（NAME） 40
   3. デリート（DELETE） 42
   4. コピー(COPY) 43

第3章　パネルの設定を記憶させてみましょう 46

1. レジストレーション・メモリーの操作 46
   1. レジストレーションを記憶させましょう 46
   2. レジストレーションを呼び出してみましょう 47
2. ディスクを使っての操作について 48
   1. セーブ（SAVE） 48
   2. ロード（LOAD） 50
   3. リスト（LIST） 51
   4. ネーム（NAME） 52

第4章　その他の機能について 55
1. トランスポーズ（TRANSPOSE） 55
2. ペダル・アサイン（PEDAL ASSIGN） 56
1. レフト・ペダル（LEFT PEDAL） 56
2. ダンパー・ペダル（DAMPER PEDAL） 57
3. リバーブ（REVERB） 58
4. チューニング 59
5. チューニング・カーブのオン／オフ 60

第5章　MIDI（ミディ）を使ってみましょう 61
1. MIDI（ミディ）の概要 61
2. ベーシック・チャンネルの設定 64
3. プログラム・ナンバーの送受信 65
4. マルチ・ティンバー・モードの設定 68
5. ローカル・コントロール・オン／オフの設定 70

付 録
1. 他の機器との接続 71
2. コード・フォーム 72
3. こんな場合は故障ではありません 73
4. エラー・メッセージ 74

索 引 75
主な仕様 76

MIDI インプリメンテーション・チャート 77

入門編

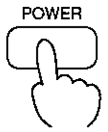
簡単に楽しむために

第1章 音を出してみましょう

この章では、音を出すまでの手順を説明します。

ステップ 1　電源プラグをコンセントに差し込みます。

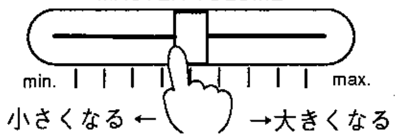
ステップ 2　操作パネルの右側の電源スイッチを押します。



電源をオンにすると、ディスプレイは,数秒間
KAWAI D.PIANO
PV35
と表示した後,上段に音色名とアレンジメント・ナンバーを、下段にリズム名とテンポ（リズムの速さ）を表示します。

★電源オン直後では、常に、PIANO 1, POPS, テンポ=120,アレンジメント・ナンバー 4 が設定されます。

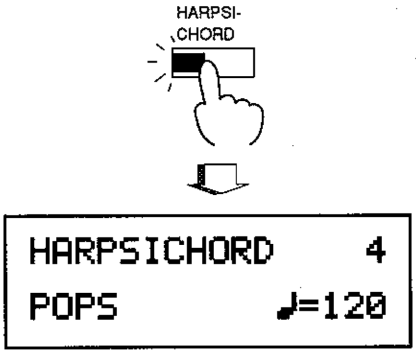
ステップ 3　MASTER VOLUME （マスター・ボリューム）レバーで、お好みの音量に調節します。
マスター・ボリュームは、トーン（パネル音色）や伴奏音など、PV35全体の音量を調節します。



ステップ 4

トーン・ボタンの中から、1つのボタンを押します。
押されたボタンのランプが点灯します。

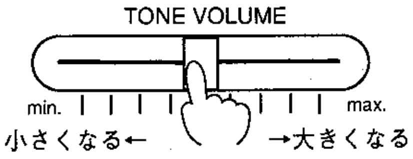
選ばれた音色がディスプレイ上段に表示されます。



ステップ 5

TONE VOLUME （トーン・ボリューム）レバーで、トーン（音色）の音量を調節します。

トーン・ボリュームは、トーンのみの音量を調節します。

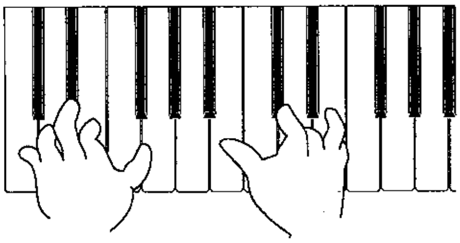


★いちばん左にすると、音が出なくなります。
★マスター・ボリュームが小さく設定されていると、トーン・ボリュームを動かしても音が大きくなりません。

ステップ 6

鍵盤を弾いてみましょう。

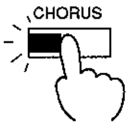
選ばれた音色で音が出ます。色々な音色に切り替えてみましょう。



ステップ 7

効果を付けてみましょう。

●コーラス・ボタンを押します。
コーラス・ボタンのランプが点灯し、音が左右に広がります。
もう一度押すと、オフになります。



★コーラスは、トーンのみにかかります。

● BRILLIANCE （ブリリアンス）レバーを左右に動かします。
bright 側に動かすと明るい音になり、mellow 側に調節するとやわらかい音になります。

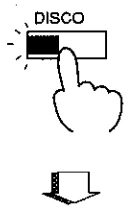
★ブリリアンスは、トーン、リズム音、自動伴奏のすべてにかかります。

第2章　リズム伴奏を演奏してみましょう

PV35では、24種類の内蔵リズムと8種類のディスク・リズムで、合計32種類のリズムが楽しめます。また、オート・アカンパニメントやワン・フィンガー・アドリブなどの充実した自動演奏や、さらに、アレンジメント・エクスパンダー・ダイアルによって、リズムと伴奏パターンを８種類に変化させることができ、多彩な演奏をすることが可能です。

1. リズムを鳴らしてみましょう

ステップ 1　リズム・ボタンの中から1つボタンを押します。
押されたボタンのランプが点灯します。



選ばれたリズムが、ディスプレイ下段に表示されます。

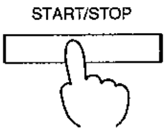
```
E.PIANO1        4
DISCO       ♩=120
```

さらに VARIATION （バリエーション）ボタンを押すと、選んだリズムのバリエーション・パターンが演奏されます。

★演奏中にリズムを変えられます。選び直したリズムは、次の小節から演奏されます。

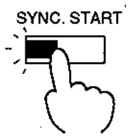
ステップ 2　リズムをスタートさせます。
リズムのスタート方法には、次の４通りがあります。

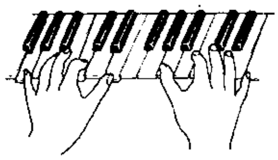
●スタート/ストップ（START/STOP）
START/STOP （スタート／ストップ）ボタンを押します。



リズムがスタートします。

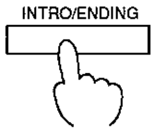
● シンクロ・スタート（SYNC. START）
リズムが止まっているときに、SYNC. START（シンクロ・スタート）ボタンを押します。
ランプが点灯してスタート待機になります。
鍵盤を弾くと、リズムがスタートします。鍵盤での演奏と同時にリズムをスタートさせるときに使います。





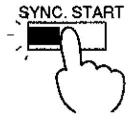
鍵盤を弾くと同時にリズムがスタートします。

● イントロ・エンディング（INTRO/ENDING）
リズムが止まっているときに INTRO/ENDING（イントロ・エンディング）ボタンを押します。
イントロ（序奏）パターンの演奏後、通常のリズム・パターンが始まります。

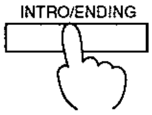


● シンク・イントロ
シンクロ・スタートとイントロ／エンディングは、組み合わせて使うことができます。

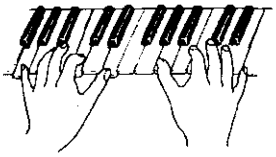
① SYNC. START（シンクロ・スタート）ボタンを押します。



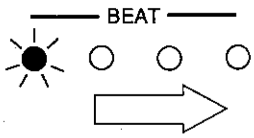
② INTRO/ENDING（イントロ・エンディング）ボタンを押します。



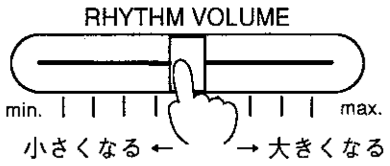
③鍵盤を弾くと、イントロからスタートして、リズムが鳴ります。



テンポ・ボタンの上にある4つのビート・ランプは、リズムが鳴っているときに、1拍ごとに左から右に点滅してリズムの拍子を示します。



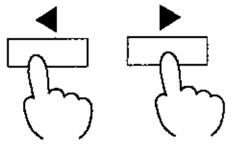
ステップ 2　RHYTHM VOLUME（リズム・ボリューム）レバーでリズムの音量を調節します。



★いちばん左にすると、リズムの音が出なくなります。
★マスター・ボリュームが小さく設定されていると、リズム・ボリュームを動かしても音が大きくなりません。

ステップ　4　テンポを調整します。

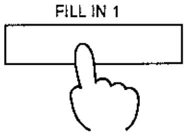
◀ ▶（テンポ）ボタンのどちらかを1回押すと、テンポ表示が1ずつ変化します。ボタンを押し続けると、10ずつ連続的に変化します。テンポは、40〜250の範囲で調整できます。



E.PIANO1	4
DISCO	♩=115

ステップ　5　リズムに変化をつける

● フィル・イン（FILL IN 1〜 FILL IN 3）
リズム演奏中にフィル・イン・ボタンを押すと、リズム・パターンや伴奏パターンが変化します。曲の区切りに入れると曲にメリハリを付けられます。ひとつのリズムには、3つのフィル・イン・パターンがあります。



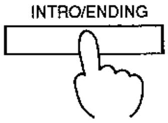
● オート・フィル・イン（AUTO FILL IN）
このボタンを押しておくと、フィル・イン・ボタンを押さなくても、自動的に4小節ごとにフィル・インが演奏されます。

★フィル・インは、次の順序で演奏されます。
FILL IN 2 → FILL IN 2 → FILL IN 2 → FILL IN 1 → FILL IN 2 →.........

ステップ　6　リズムをストップします。
リズムを止める方法は、次の2通りがあります。

● スタート／ストップ（START/STOP）
START/STOP（スタート／ストップ）ボタンを押します。

● イントロ／エンディング
INTOR/ENDING（イントロ／エンディング）ボタンを押します。
エンディング・パターンの演奏後、リズムがストップします。

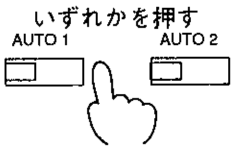


2. 自動伴奏を加えてみましょう（オート・アカンパニメント）

PV35には、鍵盤を押さえるだけで、設定されているリズムに合った、コードとベースの伴奏を加えられるオート・アカンパニメント機能があります。

ステップ　1　リズムを選びます。

ステップ　2　自動伴奏モードを選びます。
AUTO 1（オート1）ボタンAUTO 2（オート2）ボタンのいずれかを押します。
押されたボタンのランプが点灯します。
自動伴奏モードには、次の2通りがあります。



● オート1（AUTO 1）モード
スプリット・ポイントに設定された位置より、左の鍵盤（ロワー鍵盤）を押さえれば、コードやベースの自動伴奏が演奏されます。

★電源をオンにした後は、スプリット・ポイントはC4に設定されています。
★スプリット・ポイントの変更は20ページを参照してください。

● オート2（ATUTO 2）モード
いずれかの鍵盤で、和音を押さえれば、コードとベースの自動伴奏が演奏されます。さらに、ロワー鍵盤内で弾かれた鍵盤の最低音で、ベース・パターンが変化します。

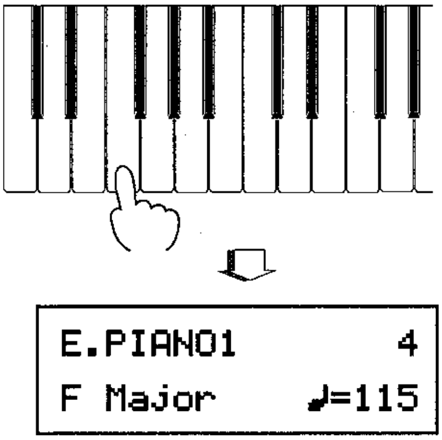
★スプリット・モードに設定して、ロワーにベースの音を選び、ベース・ボリュームをmin. にすると、左手でベース演奏を、右手でメロディーを弾きながらコード伴奏を付けられます。
★スプリット・モードの設定は19ページを参照してください。

オート1とオート2の違い

	オート1 オルガンやジャズ・ピアノに慣れているプレーヤー向きです	オート2 コンテンポラリーやピアノに慣れているプレーヤー向きです
コード検出鍵盤	ロワー鍵盤	すべての鍵盤
ベース検出鍵盤	ロワー鍵盤	すべての鍵盤 ただし、ロワー鍵盤でベースのルート(根音)を検出します
検出条件	鍵盤を押さえればコード検出されます	3音以上押された場合に、コード検出されます
トーンの発生	ロワー鍵盤を弾いてもトーンの音は出ません。（スプリット・モード時を除く）	すべての鍵盤で、トーンの音が出ます。

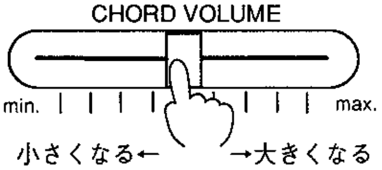
ステップ 3　リズムをスタートさせます。
(スタートの方法は、6 ページ参照)

ステップ 4　鍵盤を弾きます。
コードとベースが演奏されます。
ディスプレイに判別されたコードが表示されます。

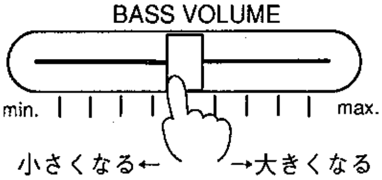


ステップ 5　CHORD VOLUME（コード・ボリューム）レバーとBASS VOLUME（ベース・ボリューム）レバーでコード、ベースの音量を調節します。

●コード音量の調整



●ベース音量の調整



★いちばん左にすると音が出なくなります。
★マスター・ボリュームが小さく設定されていると、各ボリュームを動かしても音が大きくなりません。

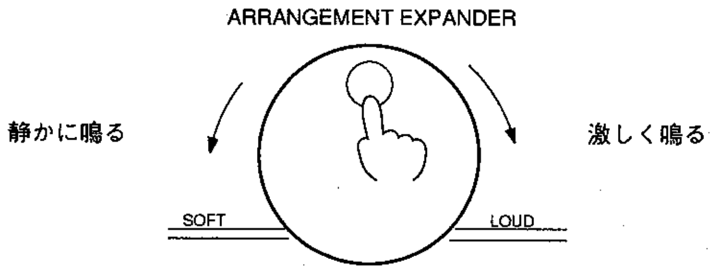
ステップ 6　リズム・自動伴奏をストップします。
(ストップの方法は、8 ページ参照)

ステップ 7　自動伴奏を解除するには........
ランプの点灯している自動伴奏モード・ボタンを押します。ランプが消灯し、自動伴奏が解除されます。

★PV35で識別できるコードについては、72 ページを参照してください。

3.パターンにメリハリを付けてみましょう（A・Eダイアル）

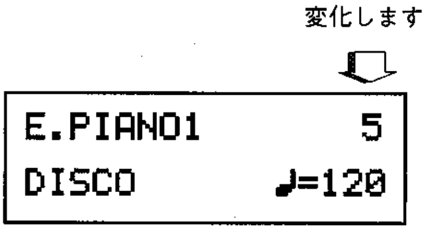
どんな曲を演奏する場合でも、その曲の中には、流れ(メリハリ)があります。PV35では、選んだリズムや自動伴奏を静かなパターンから、激しいパターンまで8段階に変化させることができる、アレンジメント・エクスパンダー・ダイアル（以下A・Eダイアルと呼びます）が装備されています。



左右に回すと伴奏が8段階に変化します。

ステップ1　リズム・自動伴奏をスタートさせます。

ステップ2　A・Eダイアルを回します。
ディスプレイのアレンジメント・ナンバーが変化します。A・Eダイアルを右に回すと、リズムと自動伴奏が激しくなり、ディスプレイのアレンジメント・ナンバーが増えていきます。左に回すと、リズムと自動伴奏が静かになり、ディスプレイのアレンジメント・ナンバーが減っていきます。



★アレンジメント・ナンバーは、1から8まで変化します。
★アレンジメント・ナンバーは、A・Eダイアルを約1／4周回すと変化します。

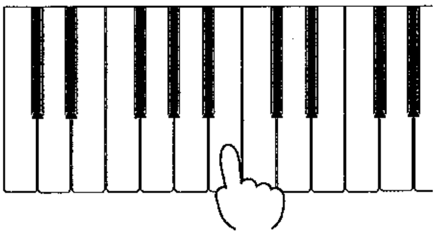
4. アドリブを楽しみましょう（ワン・フィンガー・アドリブ）

PV35には、指一本で鍵盤を押さえるだけで、リズムに合ったさまざまなアドリブ演奏をするワン・フィンガー・アドリブ機能があります。

1. アドリブ・フレーズを聴いてみましょう

ステップ1　ONE FINGER AD-LIB（ワン・フィンガー・アドリブ）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。

ステップ2　鍵盤を押します。
ONE FINGER AD-LIBと表示された鍵盤のいずれかを押します。
鍵盤を押している間、選んだリズムに合ったアドリブ・フレーズが演奏されます。鍵盤によって、フレーズや音色が変わります。



★アドリブ・フレーズは、鍵盤を押したところから始まりますので、好きなタイミングで、アドリブ演奏を始めることができます。

ステップ3　ロアー鍵盤で、コードを押さえます。
コードに合ったフレーズが演奏されます。

★トーンを選んで音色を変えられます。
★アドリブのプリセット音色が変更されると、ワン・フィンガー・アドリブ・ボタンを一度オフにしてからオンにするか、電源を入れなおすまで元のプリセット音色にもどりません。
★アドリブ用の鍵盤範囲は、スプリット・ポイントで設定します。
（スプリットについては19ページを参照してください。）

ステップ4　ワン・フィンガーアドリブを解除するには……
ONE FINGER AD-LIB（ワン・フィンガー・アドリブ）ボタンを押します。
ランプが消灯し、ワン・フィンガー・アドリブ機能が解除されます。

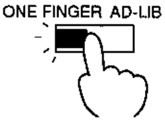
2. コード進行に合わせて弾いてみましょう

ステップ1

AUTO 1 （オート1）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。

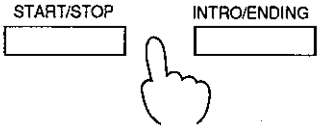
ステップ2

ONE FINGER AD-LIB （ワン・フィンガー・アドリブ）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。



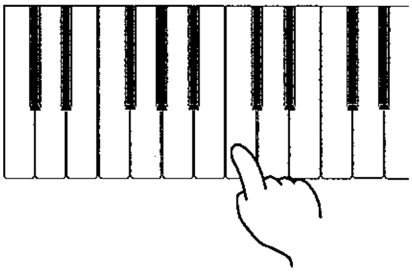
ステップ3

リズム、自動伴奏をスタートさせます。



ステップ4

ワン・フィンガー・アドリブ鍵盤を押します。
プリセットされたコード進行に合わせて、アドリブ・フレーズが変化し、右手だけで演奏を楽しめます。



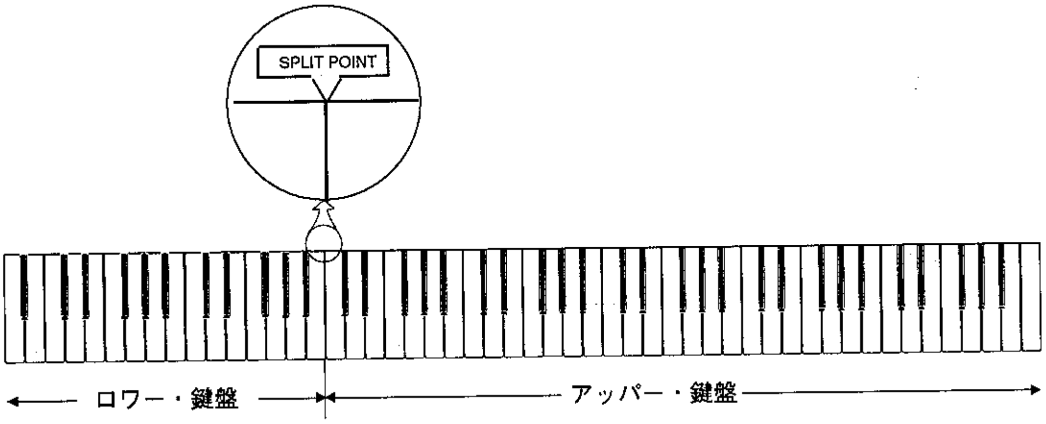
★ステップ2の後コード指定を行なうと、プリセットされたリズム進行は解除されます。アドリブ・フレーズは、押さえたコードに従って、変化します。
★ステップ1とステップ2の間で、コード指定を行なうと、
- 押さえたコードがマイナーの場合は、マイナー用にプリセットされているコード進行になります。
- 押さえたコードのキーがC以外(E、Fなど)の場合は、そのキーに移調されたコード進行になります。

5. メロディーに和音を付けましょう(オート・メロディー・コード)

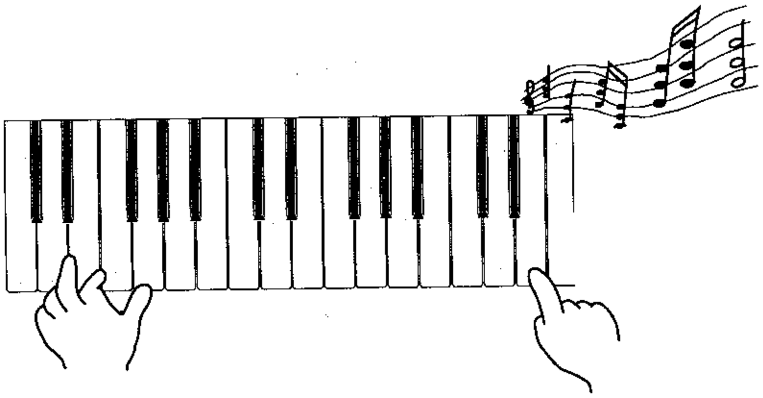
オート・メロディー・コードは、ロワー鍵盤で押さえたコードを、アッパー鍵盤で弾かれている最低音に2音加えます。単音で弾いてもハーモニーを付けられます。

ステップ1　AUTO MELODY CHORD（オート・メロディー・コード）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。

●鍵盤がアッパーとロワーに分けられます。



●ロワー鍵盤でコードを押さえると、アッパー鍵盤で弾いた音に、和音が重なります。



一本指でメロディーを弾いても、たくさんの指で演奏しているように聞こえます。

★オート・メロディー・コードとワン・フィンガー・アドリブは同時に使えません。

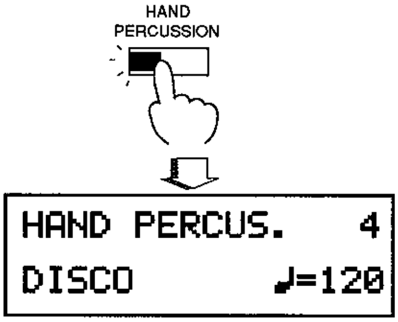
ステップ2　オート・メロディー・コードを解除するには......
AUTO MELODY CHORD（オート・メロディー・コード）ボタンを押します。
ボタンのランプが消灯し、オート・メロディー・コードが解除されます。

6. リズム・セクションを演奏してみましょう（ハンド・パーカッション）

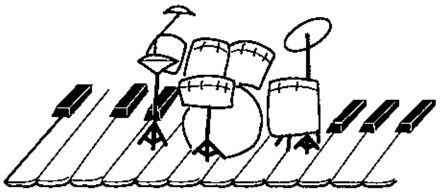
ハンド・パーカッションは、パネル上に描かれているリズム楽器の音を鍵盤で演奏できる機能です。

ステップ1　HAND PERCUSSION （ハンド・パーカッション）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。

ディスプレイにHAND PERCUS.と表示されます。

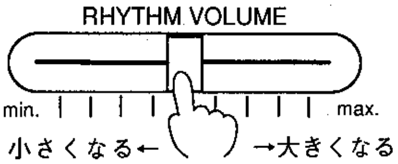


ステップ2　鍵盤を弾くと、パーカッションの音が鳴ります。



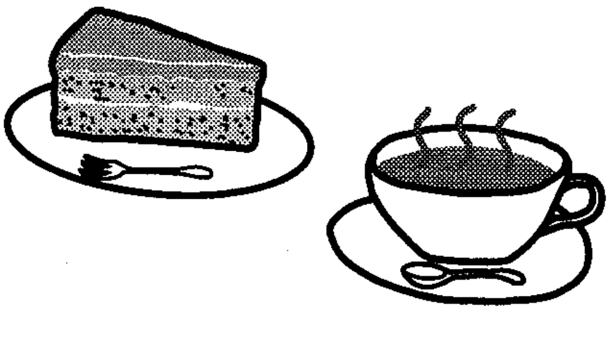
鍵盤がリズム・セクションになります。

ステップ3　RHYTHM VOLUME （リズム・ボリューム）レバーで音量を調節します。



ステップ4　ハンド・パーカッションを解除するには......
HAND PERCUSSION （ハンド・パーカッション）ボタンを押します。
ランプが消灯し、ハンド・パーカッションが解除されます。

ちょっとひとやすみ



応用編

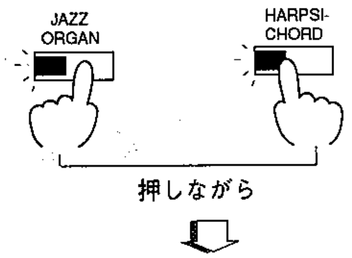
より楽しく使うために

第1章　2つの音色で演奏してみましょう

1. 音色を重ねて演奏してみましょう（デュアル・モード）

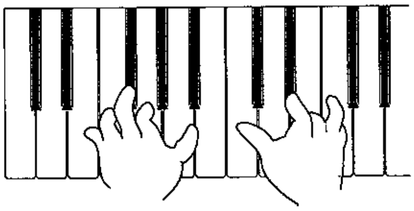
PV35には、2つの音色を同時に演奏できるデュアルモードがあります。この機能により、深みのある音色が得られます。

ステップ1　選びたいトーン・ボタンの1つを押しながら、もう一方を押します。

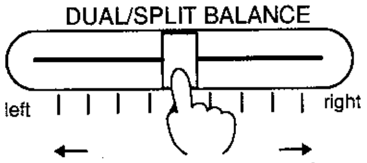


ディスプレイ上段に、選ばれた2つのトーンが表示されます。

ステップ2　鍵盤を弾くと、選ばれた2つの音色で鳴ります。



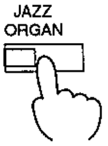
DUAL/SPLIT BALANCE（デュアル／スプリット・バランス）レバーで、2つの音のバランスを調節します。



← ディスプレイに表示されている左側のトーンの音量が大きくなる。

→ ディスプレイに表示されている右側のトーンの音量が大きくなる。

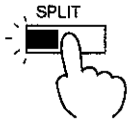
ステップ3　デュアル・モードを解除するには……
トーン・ボタンの1つを押すと、デュアル・モードが解除されます。



2. 右手と左手を別々の音色で演奏してみましょう（スプリット・モード）

PV35には、鍵盤を左手用（ロワー鍵盤）と右手用（アッパー鍵盤）に分けて、それぞれ別々の音色で演奏できるスプリット・モードがあります。右手でメロディーを弾きながら、左手で別の音色でのコード演奏やベース演奏が可能になります。

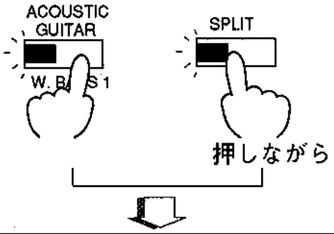
ステップ1　SPLIT（スプリット）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。
SPLIT POINT と書かれている位置（B３とC４の間）の左右で別々のトーンで演奏できます。



★ 現在選ばれている音色がアッパー側になります。また電源オンの後、最初にスプリット・モードを選択すると、ロワー側の音色として、初期設定されている WOOD BASS1 が選ばれます。

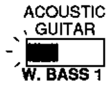
ステップ2　アッパー鍵盤のトーンを変えるには.........
選びたいトーン・ボタンを押します。

ステップ3　ロワー鍵盤のトーンを変えるには........
スプリット・ボタンを押しながら、選びたいトーン・ボタンを押します。



ディスプレイ上段の左側にロワー・トーンが、右側にアッパー・トーンが表示されます。

このとき、トーン・ボタン下段の7つのボタンは、下に表示されているベース／チューバの音色になります。



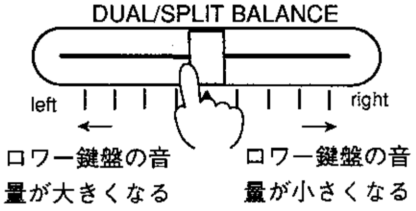
1回押すと下の音色(WOOD BASS1)

上に表示されている音色にするときはもう一度押します。

もう一度押すと上の音色(ACOUSTIC GUITAR)になります。

★スプリット・モードでのロワー鍵盤の音色は、TUBAと各BASSを除いて、通常にセットされたときより、１オクターブ高い音程で鳴ります。

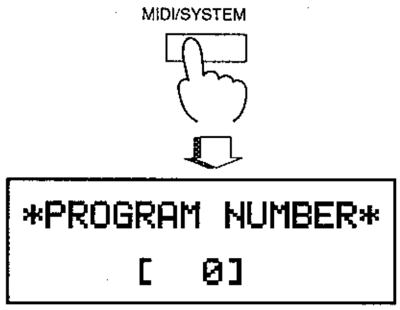
DUAL/SPLIT BALANCE（デュアル／スプリット・バランス）レバーでアッパー鍵盤とロワー鍵盤の音量バランスを調節します。



ステップ４

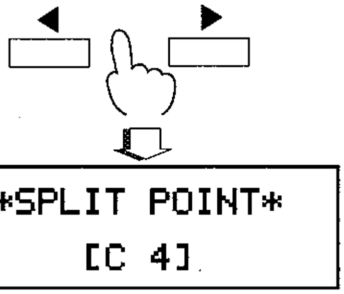
スプリット・ポイントの設定を変えるには........

①［MIDI/SYSTEM］（ミディ／システム）ボタンを押します。

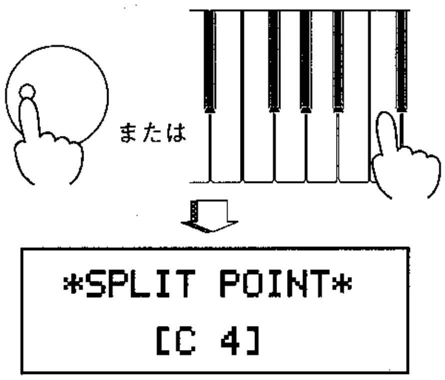


★ この後、数秒間操作を行わないと、自動的にミディ／システム・モードが解除されます。

［◀］［▶］ボタンで　*SPLIT POINT*　を表示させます。

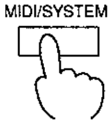


② A・Eダイアルか鍵盤を押して、スプリット・ポイントを指定します。



ディスプレイに表示された鍵盤名がアッパーの最低音になります。

③［MIDI/SYSTEM］（ミディ／システム）ボタンを押します。



★指定したスプリット・ポイントが、アッパー鍵盤の最低音になります。

ステップ５

スプリット・モードを解除するには........
［SPLIT］(スプリット)ボタンを押します。
ボタンのランプが消灯し、スプリット・モードが解除されます。

★一度電源を切ると、スプリット・ポイントはもとの位置(B3とC4の間)に戻ります。

第2章 ディスクを使ってみましょう

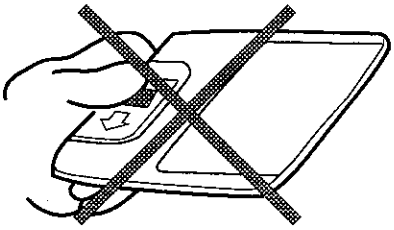
PV35の豊富な機能に加え、フロッピー・ディスク（以下ディスク）を使って、さらに次のような演奏や機能が楽しめます。

- 曲（ソング）の再生
  付属のディスクや別売のソング・ソフトには、色々な曲が録音されています。これらの曲を自由に再生できます。
- リズムや自動伴奏を増やす（ディスク・リズム）
  付属のディスクや別売のパターン・ソフトには、本体のプリセット・リズムとは別のパターンが入っています。プリセット・リズムと合わせて、さらに多彩なリズムや自動伴奏を楽しめます。
- 演奏の録音／再生（ディスク・ライブラリー）
  演奏をディスクに録音して、テープレコーダーのように、自由に再生できます。しかも、16のパートを別々に録音・再生できます。
- 操作パネルの記録・呼び出し（レジストレーション・メモリー）
  操作パネルの各ボタンやレバーの設定など（レジストレーション・メモリー）を、7個まとめてディスクに記録・呼び出すことができます。

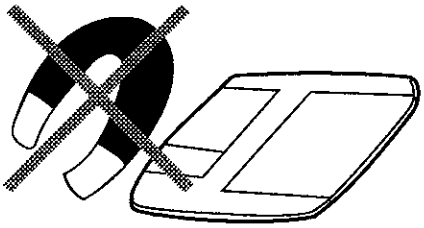
■ディスクの取扱いについて

ディスクは、コンピュータやワープロなどで、データを記録する媒体のひとつです。ディスクを使用するときは、以下の注意を守ってください。

- 使用するディスクの種類
  PV35では、3.5インチ、2DDのディスクを使います。他の種類のディスクは使用できません。
- ディスクの中身をさわったり、内部にゴミを入れないでください。
  ディスクを開けて中身をさわったり、シャッターの中にゴミが入ると、データが正しく記録できなくなります。

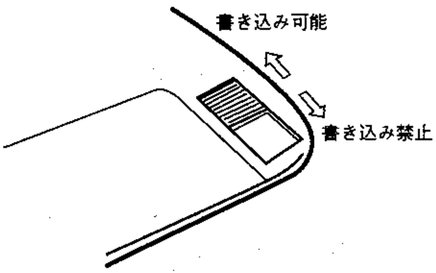


- 強い磁石のそばに置かないでください。
  ディスクは、外部からの磁気で、データが破壊されます。磁石やスピーカーの近くに置かないでください。



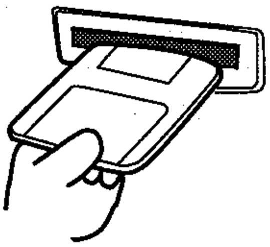
● メモリー・プロテクト

ディスクの左下に小さな四角の窓があります。これは、データの書き込みを防止するためのものです。窓が閉まっていると、データの書き込みが可能となり、窓が開いている状態では、ディスク上にデータを記録することができなくなります。中のデータを書き替えたり、消したくないディスクは、メモリー・プロテクトの窓を開けておいてください。



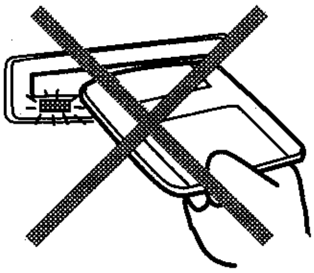
● PV35への挿入と取り出し

ラベル面を上にして、金属シャッターの方からPV35のディスク・スロットへ入れてください。カチャッと音がして、ディスクがスロットの中に完全に入るまで差し込んでください。取り出すときは、イジェクト・ボタンをゆっくり押してください。



● ディスク・インジケータの点灯中は、ディスクを取り出さないでください。

ディスク・スロットのランプが点灯しているときにディスクを取り出すと、中のデータが破壊されます。

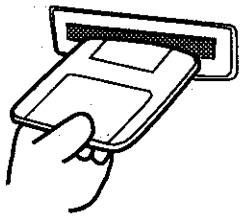


1. ディスクの演奏を聴いてみましょう

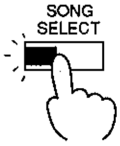
PV35には、ソングとディスク・リズムの入ったディスクが同梱されています。また別売で、ソングが録音されているソング・ソフトやディスク・リズムの入ったパターン・ソフトが用意されています。これらのディスクを使って、ソングやプリセット以外のリズムや自動伴奏を聴いてみましょう。

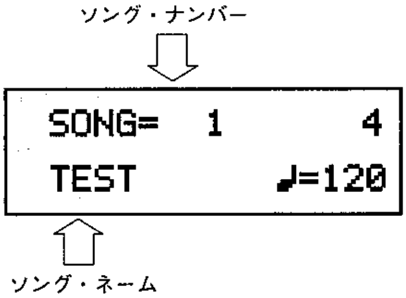
1. ソングを聴いてみましょう

ステップ1 付属のディスクか、ソング・ソフトをPV35のディスク・スロットに挿入します。



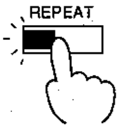
ステップ2 SONG SELECT （ソング・セレクト）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯し、ソング・セレクト・モードに入ります。
ディスプレイにソング・ナンバーとソング・ネームが表示されます。





ステップ3 A・Eダイアルで聴きたいソングを選びます。

★ REPEAT （リピート）ボタンを押しておくと、選ばれているソングが繰り返し再生されます。

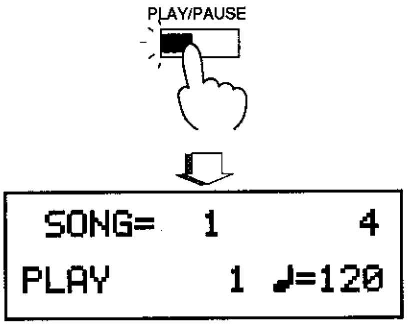


★ ALL を選ぶと、録音されているすべての曲が再生されます。また、リピートをオンにしておくと、すべての曲が繰り返し再生されます。

SONG 1 ⇨ SONG 2 ⇨ SONG 3 ⇨………⇨ SONG 100

ステップ 4

PLAY/PAUSE （プレイ／ポーズ）ボタンを押します。
選ばれたソングが再生されます。



ディスプレイ上段中央にソング・ナンバー、下段右側にテンポ、中央に小節数カウンターが表示されます。

★再生中は、ディスクを抜かないでください。

ステップ 5

一時停止、早送り早戻しをするには........

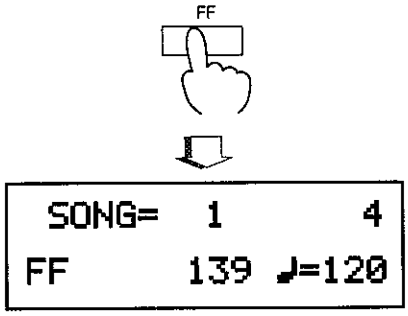
● 再生中に PLAY/PAUSE （プレイ／ポーズ）ボタンを押すと、再生が一時停止し、**PLAY** の表示が **PAUSE** になります。

再生が一時停止

もう一度押すと、止まったところから再生されます。

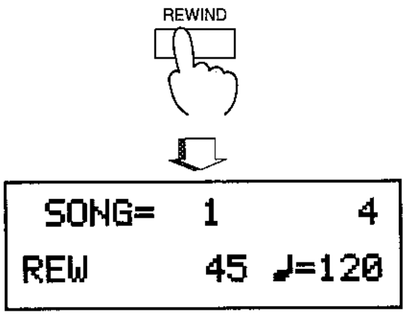
止ったところからスタート

● FF （早送り）ボタンを押している間、曲を早送りすることができ、ディスプレイに表示されます。



★曲が止まっているときは高速で早送りし、演奏中は、最大テンポで演奏を聴きながら早送りします。
★曲の最後まで早送りすると、カウンターはそれ以上進みません。

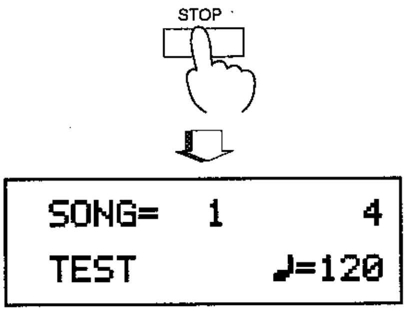
● REWIND （早戻し）ボタンを押している間、曲を早戻しすることができ、ディスプレイに表示されます。



★曲が停止中のときも、再生中のときも高速で早戻しします（音は出ません）。

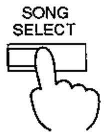
ステップ6

STOP （ストップ）ボタンを押します。
再生が止まり、PLAY/PAUSE （プレイ／ポーズ）ボタンのランプが消灯し、カウンター表示からソング・ネーム表示に変わります。



ステップ7

ソング・セレクト・モードを解除するには……
SONG SELECT （ソング・セレクト）ボタンを押します。
ランプが消灯し、ソング・セレクト・モードが解除されます。



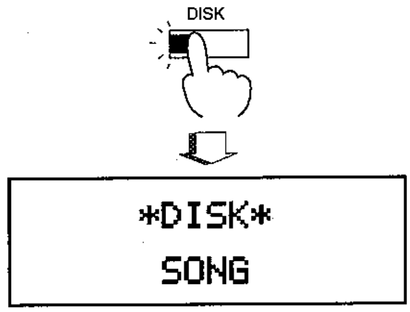
2. ディスク・リズムを聴いてみましょう

付属のディスクかパターン・ソフトをPV35のディスク・スロットに挿入します。

★ディスク・リズムの入ったディスクをスロットに入れてから、電源をオンにすると、自動的に読み込まれます。

ステップ1

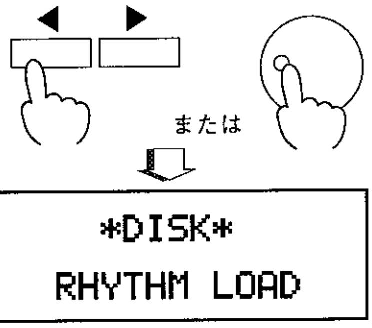
DISK （ディスク）ボタンを押します。
ランプが点灯し、ディスク・モードに入り、ディスプレイに SONG と表示されます。



★パターン・ソフトの場合、SONG は表示されず、RHYTHM LOAD と表示されますので、ステップ3から操作を行ってください。

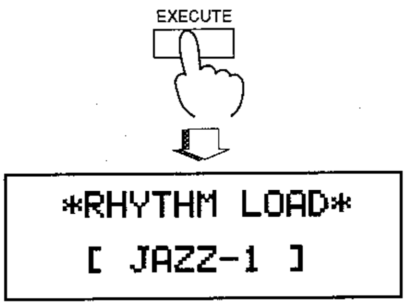
ステップ2

◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで、RHYTHM LOAD を選びます。



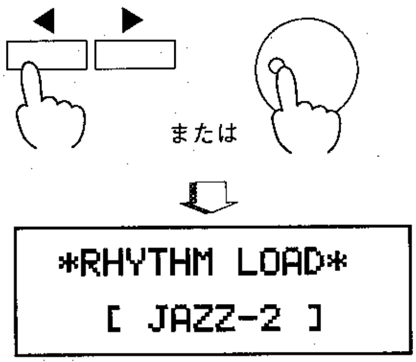
ステップ3

EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスプレイにリズム・セットの名称が表示されます。



ステップ4

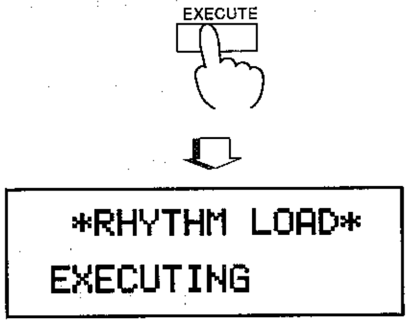
リズム・セットを選びます。
付属のディスクには、8つのリズムが1セット、別売のパターン・ソフトには2セット入っています。
◀ ▶ (テンポ) ボタンまたはA・Eダイアルでセットを選びます。



★付属のディスクは1種類のみです。

ステップ5

EXECUTE (エグゼキュート) ボタンを押します。
選ばれたリズムがPV35本体内に読み込まれます。
読み込み中はディスプレイに、EXECUTING と表示されます。



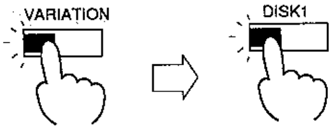
★ディスク・インジケータの点灯中は、ディスクを抜かないでください。

読み込みが終わると、DISK (ディスク)ボタンのランプが消え、ディスク・モードが解除されて、ディスプレイがディスク・モードに入る前の状態に戻ります。

ステップ6

ディスク・リズムを選びます。
●ディスク・リズムの1〜4を選ぶときは、
DISK1 〜 DISK4 のいずれかを押しま す。

●ディスク・リズムの5〜8を選ぶときは、
VARIATION (バリエーション)ボタンを押して、ランプを点灯させてから DISK 1 〜 DISK4 のいずれかを押します。



ステップ7

プリセット・リズムと同様の方法で、リズムをスタートさせます。(6ページ参照)

★ 自動伴奏をセットしておくと、選ばれたディスク・リズムに合った伴奏が演奏されます。
★ 電源を切ると、ディスク・リズムは選択できなくなります。もう一度ステップ1から行なってください。

2．演奏を録音してみましょう（ディスク・ライブラリー）

ディスク・ライブラリーを使って、曲の録音や再生ができます。1枚のディスクに最大100ソング、1ソングあたり16パート(16トラック)の録音・再生がパート別にできます。それぞれのトラックの役割は、次の通りです。

トラック1 .... メイン・トラックです。PV35で演奏した情報をそのまま録音・再生します。
付属や別売のソング・ソフトでは、左手のパートを再生できます。

トラック2〜16 .... サブ・トラックで、マルチ・ティンバー用のトラックです。
トラック1で録音した演奏や自分の演奏に別の音色でパートを重ねたりするときに使用します。トラック10は、ハンド・パーカッション専用のトラックになっています。
付属や別売のソング・ソフトでは、
トラック2..........右手のパートを再生できます
トラック3〜16........オーケストラ（伴奏）パートを再生できます。

★ディスクのライト・プロテクトを必ず書き込み可能（オフ）にしてください。
★録音したソングのデータの量によって、100曲録音できない場合があります。

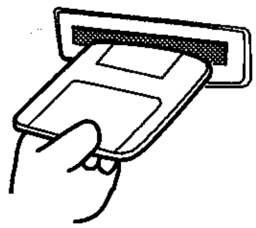
1．録音の準備（ディスクのフォーマット）

新しいディスクやPV35用以外のディスクを使う場合、フォーマットという作業をしないと録音させることができません。

★付属のディスクやPV35でフォーマットされたディスクを使う場合は、フォーマットをする必要はありません。次の**2．録音してみましょう**　に進んでください。
★すでにデータの入っているディスクをフォーマットすると、中のデータはすべて消えてしまいます。

■フォーマットは次の手順で行ないます。

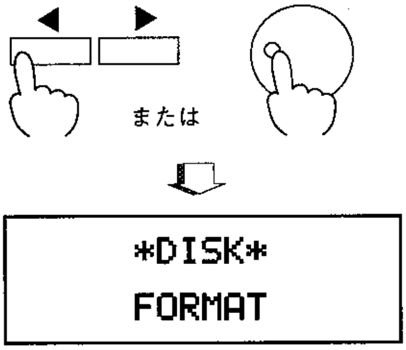
ステップ1　新しいディスクかまたは、中のデータが消えても良いディスクをPV35のディスク・スロットに挿入します。



ステップ2　DISK（ディスク）ボタンを押します。
ランプが点灯し、ディスク・モードに入ります。

ステップ3

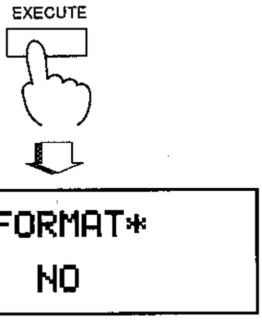
[◀] [▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルでディスプレイに**FORMAT**と表示させます。



> ★新しいディスクの場合は、FORMAT 以外は選択できません。
> ★フォーマットを中止するときは、[DISK]（ディスク）ボタンを押します。

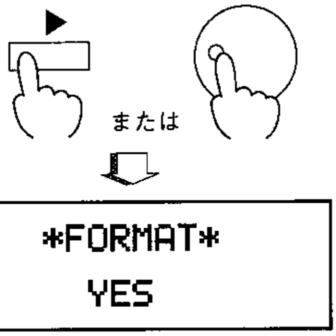
ステップ4

[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。



ステップ5

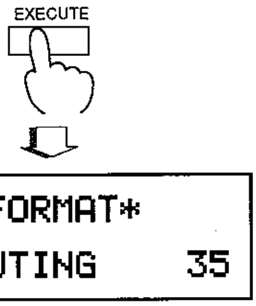
[▶] ボタンまたはA・Eダイアルで**YES**を表示させます。



> ★フォーマットを中止するときは、[DISK]（ディスク）ボタンを押します。

ステップ6

[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
フォーマットが実行されます。



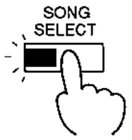
> ★ディスク・インジケータの点灯中は、ディスクを抜かないでください。
> ★[◀] ボタン、またはA・Eダイアルで**NO**が選ばれると、フォーマットは行われません。

フォーマットが終了すると、自動的に [DISK]（ディスク）ボタンのランプが消灯し、ディスク・モードが解除されます。

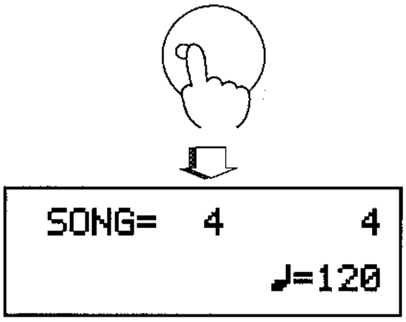
2. 録音してみましょう

ステップ1　ディスク・ライブラリー用のディスク(付属のディスク、フォーマット済みのディスク)をPV35のディスク・スロットに差し込みます。

ステップ2　SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタンを押します。
ランプが点灯して、ソング・セレクト・モードに入ります。



ステップ3　A・Eダイアルで、録音するソング・ナンバーを選択します。
すでに録音済みのソングは、ソング・ネームが表示されます。

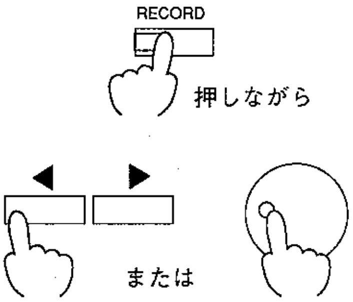


ステップ4　トーン、リズム、テンポや自動伴奏の種類を選びます。

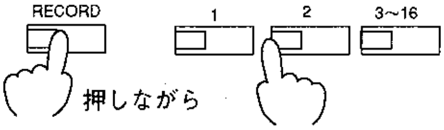
★再生中にトーン、リズム、テンポを変えることもできます。

ステップ5　録音するトラックを選びます。
録音トラックの選び方は、次の方法があります。

- RECORD（レコード）ボタンを押しながら、◀ ▶ ボタンまたはA・Eダイアルで選びます。

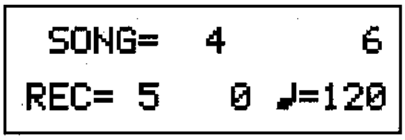


- RECORD（レコード）ボタンを押しながらトラック・ボタン 1 2 3～16 を押します。
3～16 ボタンは、押すごとに3→4→5→……→15→16→3→……とトラック・ナンバーが変わります。



ステップ6

RECORD（レコード）ボタンから指を離します。
RECORD（レコード）ボタンと SYNC. START（シンクロ・スタート）ボタンのランプが点灯し、メトロノームが鳴って、録音待機状態となります。

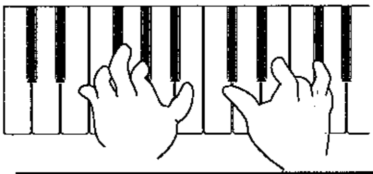


RECORD（レコード）ボタンを押しているときは、ディスプレイ下段に選ばれたトラック・ナンバー、ディスクの残量、すでに録音されているトラックであれば♩♩♩♩が表示されます。

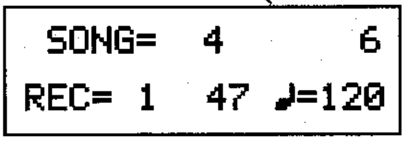
★残量の最大は610KB（キロ・バイト）です。
★録音を中止したいときは、もう一度 STOP（ストップ）ボタンを押します。

ステップ7

鍵盤を弾くと、リズムがスタートして録音を開始します。



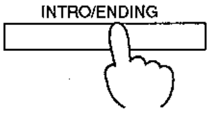
録音を開始すると、カウンター表示が進みます。



■次の方法でも、録音をスタートさせられます。

● PLAY/PAUSE（プレイ／ポーズ）ボタンを押す。
リズムは鳴らずに録音を開始（自動伴奏は録音されません）します。

● INTRO/ENDING（イントロ・エンディング）ボタンを押してから鍵盤を弾く。
イントロ・パターンから録音を開始します。

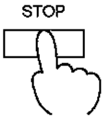


● START/STOP（スタート／ストップ）ボタンを押してから鍵盤を弾く。
リズムが鳴って録音を開始します。

★録音待機中にシンクロ・スタートをオフにして INTRO/ENDING（イントロ/エンディング）ボタンや START/STOP（スタート/ストップ）ボタンを押すと、すぐに録音が開始されます。
★録音が開始された時点で、そのとき設定されていたトーン、リズム、テンポも記録されます。
★録音中はディスクを抜かないでください。

ステップ8

録音を終了します。
STOP（ストップ）ボタンを押します。
押したところで録音が終了します。



録音が終了すると、自動的にソング・ネームが付きます。

【例】ソング・ナンバーが 4 のとき

#_004

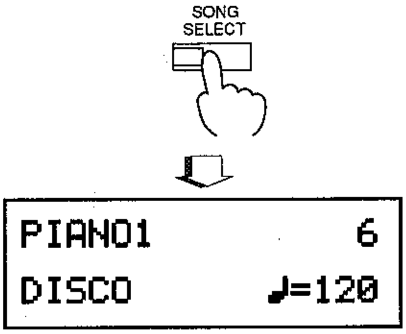
★ソング・ネームは変更できます。（40 ページ参照）

ステップ 9

ソング・セレクト・モードを解除するには.....

SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタンを押します。

ランプが消灯し、ソング・セレクト・モードが解除されます。



3. 再生してみましょう

聴きたいソングが入っているディスク・ライブラリーをPV35のディスク・スロットに挿入します。

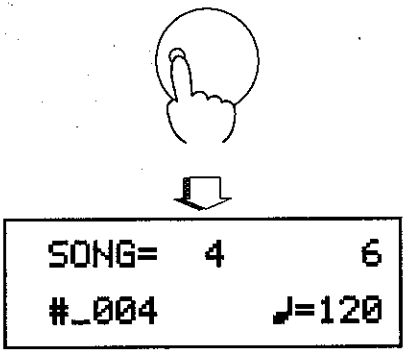
ステップ 1

SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタンを押します。

ステップ 2

A・Eダイアルで再生したいソングを選びます。

録音されているトラック・ナンバーのトラック・ボタンが点灯します。



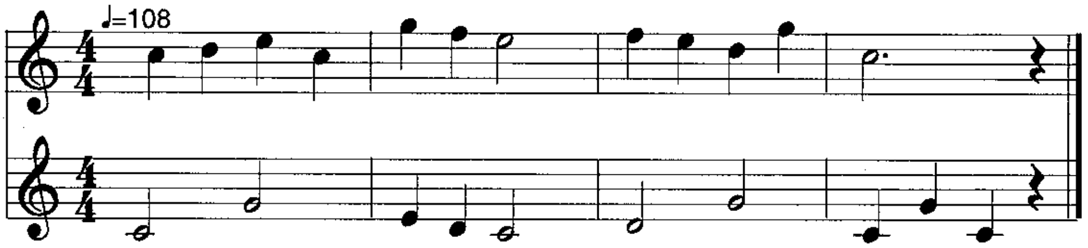
ステップ 3

PLAY/PAUSE（プレイ／ポーズ）ボタンを押します。

再生がスタートします。

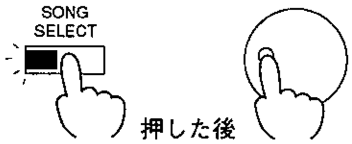
3. 左手と右手を別々に録音してみましょう

「右手のパートと左手のパートを一緒に演奏するのがむずかしい.......」というような場合、右手と左手のそれぞれのパートを別々に録音して、それらを同時に再生することができます。
下の譜面を右手、左手別々に録音してみましょう。



1. 右手パートの録音

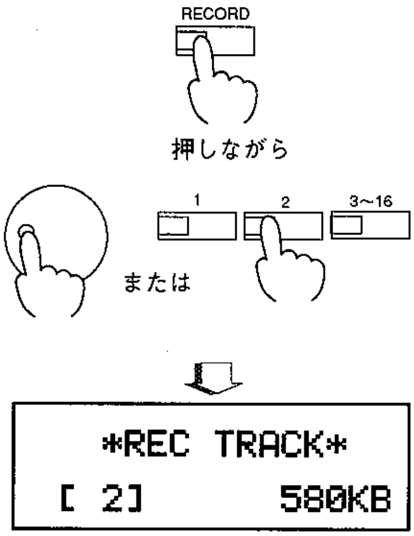
ステップ1　SONG SELECT （ソングセレクト）ボタンを押した後、A・Eダイアルでソング・ナンバーを選びます。



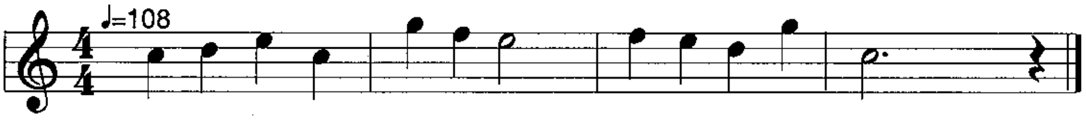
ステップ2　トーン、リズム、テンポなどを設定します。

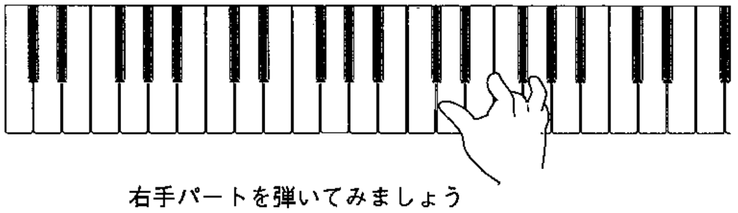
ステップ3　RECORD （レコード）ボタンを押しながら ◀ ▶ または、A・Eダイアル、トラック・ボタンで右手パートを録音するトラック・ナンバーを選びます。
ここでは、トラック2を選んでみましょう。

録音トラックを選び終わったら、RECORD （レコード）ボタンから指を離します。
RECORD （レコード）ボタンのランプが点灯し、メトロノームが鳴って、録音待機状態になります。



ステップ4　録音をスタートします（スタートの方法は 30 ページを参照してください。）
下の譜面を弾いてみましょう。



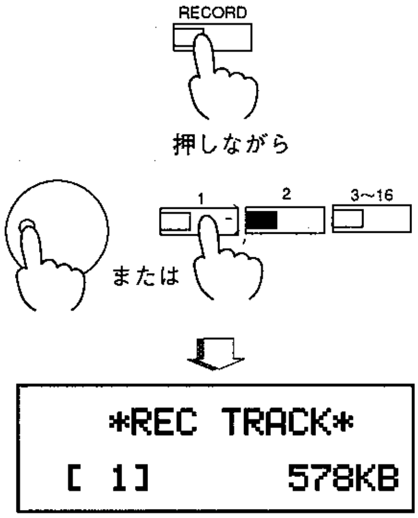


右手パートを弾いてみましょう

ステップ5　録音を終了します。（ストップの方法は 30 ページを参照してください。）

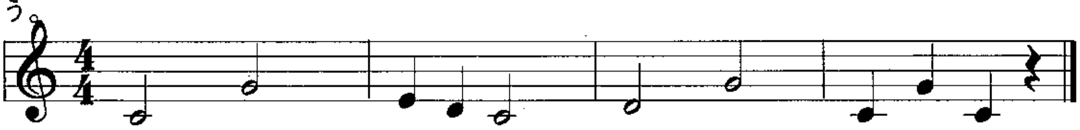
2. 左手パートの録音

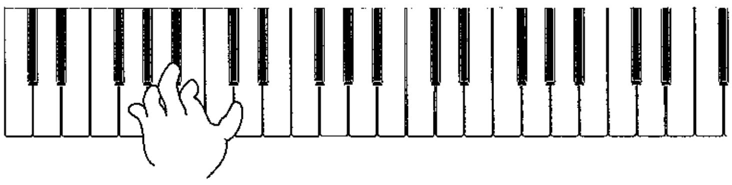
ステップ1　RECORD （レコード）ボタンを押しながら ◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで、左手パートを録音するトラック・ナンバーを選びます。ここでは、トラック1を選びます。



ステップ2　右手パートのトラック 2 ボタンが点灯しているか確認します。

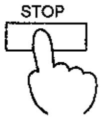
ステップ3　PLAY/PAUSE （プレイ／ポーズ）ボタンを押すと、右手パートの演奏を聴きながら、左手パートを録音できます。
右手パートに合わせて、下の譜面を弾いてみましょう。





★シンクロ・スタートや START/STOP （スタート／ストップ）ボタン、 INTRO/ENDING （イントロ／エンディング）ボタンで録音を開始すると,右手パートの録音時のリズム演奏が消え、新たにリズムの演奏が録音されます。

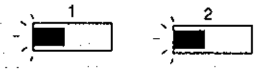
ステップ4　STOP （ストップ）ボタンを押して、録音を終了します。



★同様に、左手での自動伴奏と右手でのメロディーを別々のトラックに録音して、同時に再生させることもできます。

3. さあ、今録音した曲を聴いてみましょう

ステップ1　1 （トラック1）ボタンと 2 （トラック2）ボタンのランプが点灯しているかを確認します。



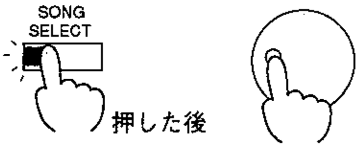
ステップ2　PLAY/PAUSE (プレイ／ポーズ)ボタンを押します。
右手と左手のパートが同時に再生されます。

4．違う音色で多重録音してみましょう

PV35で録音・再生できるトラックの数は16です。これらのトラックそれぞれに、別々のパートを録音・再生できます。メロディーを録音した後、違う音色でオブリガート、アルペジオや、ハンド・パーカッション機能を使って、多重録音できます。

★すでに録音されているトラックに録音を行なうと、以前の録音は消えてしまいます。
★自動伴奏を使って録音する場合は、トラック1に録音してください。他のトラックに録音すると、正しく再生できません。
★ハンド・パーカッション機能を使って録音する場合は、トラック10に録音してください。他のトラックには録音できません。

ステップ1　SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタンを押した後、A・Eダイアルで、ソング・ナンバーを選びます。

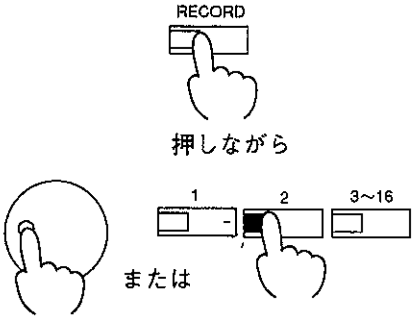


ステップ2　リズムを選びます。

ステップ3　トーン・ボタンで音色を選びます。

ステップ4　各ボリュームで音量の調節をします。

ステップ5　RECORD（レコード）ボタンを押しながら、◀ ▶ ボタン、A・Eダイアル、またはトラック・ボタンで、録音するトラックを選びます。



★トラック１０を選ぶと、ハンド・パーカッションが自動的にオンになります。

ステップ6　録音をスタートします。
（スタートの方法は 30 ページを参照）

ステップ7　録音をストップします。
（ストップの方法は 30 ページを参照）

ステップ８

次に、違う音色を選んだ後で、他の録音トラック・ナンバーを選びます。

★このとき、録音を開始する前に、すでに録音されているトラック・ボタンのランプを点灯させておけば、録音済みの演奏を聴きながら次のトラックを録音できます。

ステップ９

PLAY/PAUSE （プレイ／ポーズ）ボタンを押して、録音をスタートします。

★ START/STOP （スタート／ストップ）、 INTRO/ENDING （イントロ／エンディング）ボタンで録音をスタートすると、リズムの演奏が新たに録音されます。

ステップ10

STOP （ストップ）ボタンを押して、録音をストップします。

★ START/STOP （スタート／ストップ）、 INTRO/ENDING （イントロ／エンディング）ボタンを押すと、リズムはストップしますが、録音はストップしません。

ステップ11

ステップ８～１０を繰り返して、最大１６トラックまで多重録音できます。

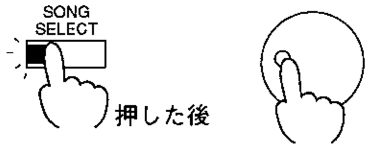
5. MIDI 情報を録音してみましょう（マルチ・レック）

PV35 には、 MIDI IN から入ってくる情報を16 チャンネル分同時に録音するマルチ・レック機能があります。

★MIDI については 61 ページを参照してください。

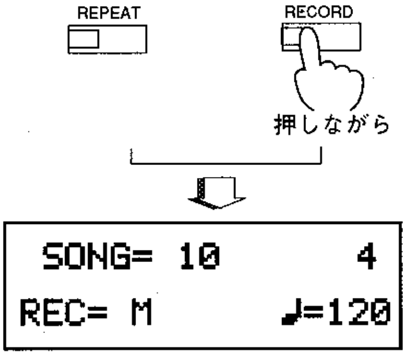
ステップ 1

SONG SELECT （ソング・セレクト）ボタンを押した後、A・Eダイアルでソング・ナンバーを選びます。



ステップ 2

RECORD （レコード）ボタンを押しながら、 REPEAT （リピート）ボタンを押します。
ディスプレイに M が表示されます。



ステップ 3

PLAY/PAUSE （プレイ／ポーズ）ボタンを押して録音をスタートします。

ステップ 4

接続されているMIDI機器からMIDI情報を送ります。

★鍵盤情報の場合、PV35 の MIDI チャンネルの設定を合わせておくと、音を出して確認できます。

ステップ 5

情報を送り終わったら、 STOP （ストップ）ボタンを押して録音をストップします。

6. トラック別に再生してみましょう

多重録音した曲や、ソング・ソフトの曲は、いくつものトラックを使って、曲を構成しています。
PV35では、各トラックを自由に選んで再生できます。

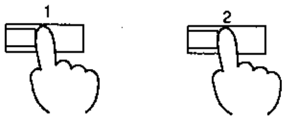
★録音されていないトラックは選択できません。

ステップ1　再生したい曲を選びます。
録音されているトラック・ボタンのランプが点灯します。

★トラック3〜16の場合は、どれか１つのトラックでも録音されていると点灯します。

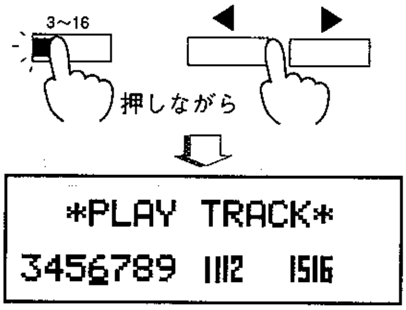
ステップ2　再生しないトラックを選びます。

●トラック１、トラック２の場合
それぞれのトラック・ボタンを押してランプを消灯させます。



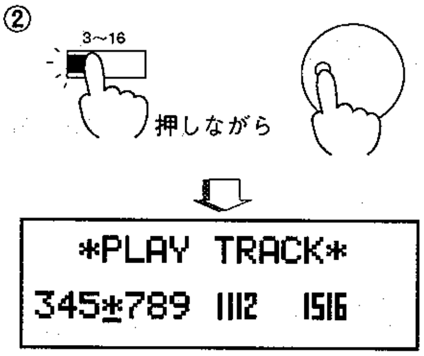
●トラック３〜１６の場合
①トラック・ボタン 3〜16 を押しながら、◀ ▶ ボタンでカーソルを移動させます。

①



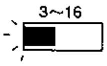
②A・Eダイアルを左に回して、*を表示させます。

②



③ 3〜16 ボタンから指を離すと、設定されます。

③



★録音されていないトラックは、表示されません。

ステップ3　再生をスタートします。

★曲の再生中もトラックのオン／オフができます。

7. その他のディスク操作について

PV35には、ディスクに入っているソングに、次のことを行なうことができます。

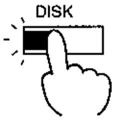
- ●リスト（LIST）..................... ソング・ナンバー、名前を順にディスプレイに表示します。
- ●ネーム（NAME）.................. 名前を付けたり、変更をします。
- ●デリート（DELETE）............... 不必要になったソングをディスクから消します。
- ●コピー（COPY）.................... ソングを同じディスク内や別のディスクにコピー(COPY)します。

1. リスト(LIST)

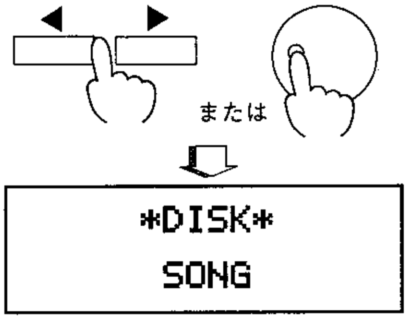
ソング・ナンバーや名前を順にディスプレイに表示します。

ステップ1　ディスク・スロットにディスクを入れます。

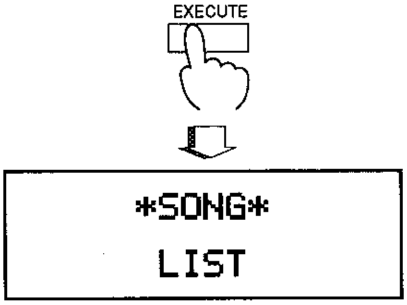
ステップ2　DISK (ディスク)ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。



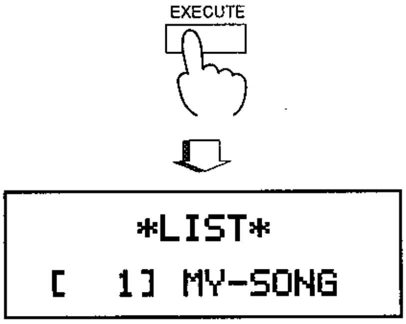
ステップ3　◀ ▶ ボタンまたはA・EダイアルでSONGを選びます。



ステップ4　EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスプレイにLISTと表示されます。

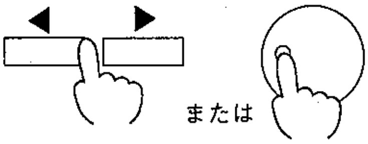


ステップ5　EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスクに入っているもっとも若いナンバーが、ディスプレイに表示されます。

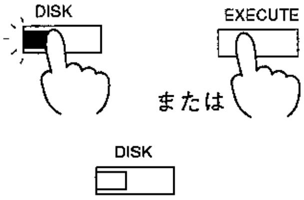


★ディスクにデータが無いときは、NO DATA! を数秒間表示した後、自動的にディスク・モードが解除されます。

ステップ6 ◀ ▶ （テンポ）ボタンを押すか、A・Eダイアルを回します。
ディスクに入っているソング・ナンバーが順に表示されます。



ステップ7 DISK （ディスク）ボタンまたは EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
DISK （ディスク）ボタンのランプが消灯し、ディスプレイが元の表示に戻ります。

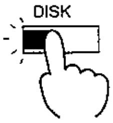


2. ネーム（NAME）

名前を付けます。

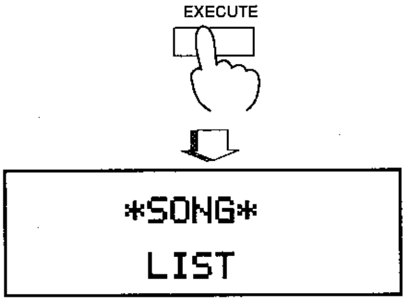
★ディスクのライト・プロテクトを必ず書き込み可能（オフ）にしてください。

ステップ1 DISK （ディスク）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。

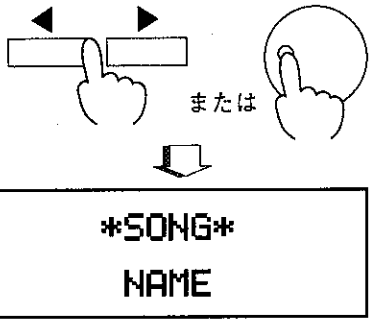


ステップ2 ◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで、SONGを選びます。

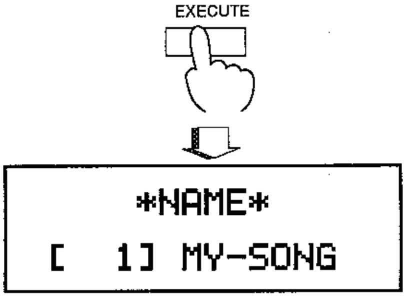
ステップ3 EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。



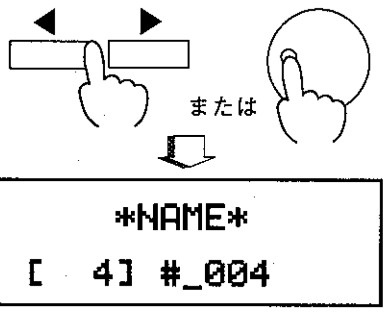
ステップ4 ◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・EダイアルでNAMEを選びます。



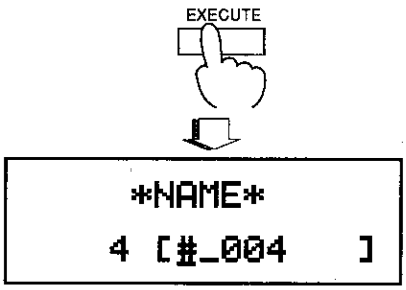
ステップ5 EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスクに入っているもっとも若いナンバーがディスプレイに表示されます。



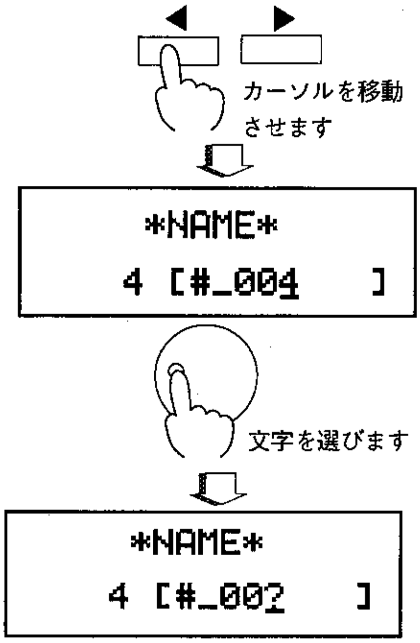
ステップ6　◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルでナンバーを選びます。



ステップ7　EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。
名前の1文字目にカーソルが表示されます。



ステップ8　◀ ▶（テンポ）ボタンでカーソルを移動させ、A・Eダイアルで文字を選びます。



★文字の設定を中止するときは、DISK（ディスク）ボタンを押します。

ステップ9　すべての文字を設定したら、EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。
DISK（ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にモードが解除されます。

★ディスクのライト・プロテクトが書き込み不可（オン）になっていると、エラーメッセージが表示されます。
★ネーム(NAME)で設定できる文字は次の通りです。

!"#$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?
@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[¥]^_
`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|}→←

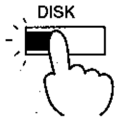
3. デリート（DELETE）

不必要になったソングをディスクから消します。

★ディスクのライト・プロテクトを必ず書き込み可能（オフ）にしてください。

ステップ1

DISK（ディスク）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。

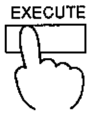


ステップ2

◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで、SONGを選びます。

ステップ3

EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。




```
*SONG*
LIST
```

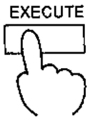
ステップ4

◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・EダイアルでDELETEを選びます。

```
*SONG*
DELETE
```

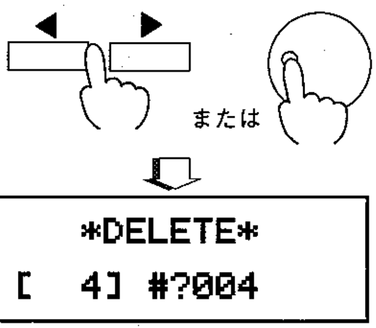
ステップ5

EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスクに入っているもっとも若いソング・ナンバーとその名前が表示されます。

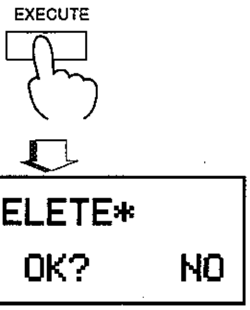



```
*DELETE*
[  1] MY-SONG
```

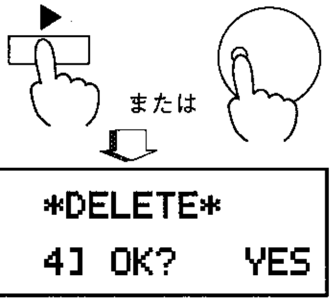
ステップ6　[◀][▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルでソングを選びます。



ステップ7　[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。



ステップ8　[▶] ボタンまたはA・EダイアルでYESを選びます。



ステップ9　[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
消去が実行されて、[DISK]（ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にディスク・モードが解除されます。

★ディスクのライト・プロテクトがオンになっていると、数秒間エラー・メッセージが表示されます。

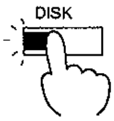
★[◀] ボタンまたはA・EダイアルでNOが選ばれると、消去は行われません。

4. コピー（COPY）

ソングを同じディスクの別のナンバーや他のディスクにコピーします。

★コピーの受け側になるディスクのライト・プロテクトを必ずオフにしてください。

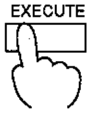
ステップ1　コピーの送り側のディスクをディスク・スロットに挿入して[DISK]（ディスク）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。



ステップ2　◀ ▶ (テンポ) ボタンまたは、A・Eダイアルで SONG を選びます。

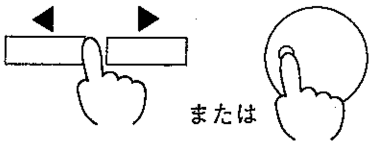
```
*DISK*
SONG
```

ステップ3　EXECUTE (エグゼキュート) ボタンを押します。




```
*SONG*
LIST
```

ステップ4　◀ ▶ (テンポ) ボタンまたはA・EダイアルでCOPY を選びます。




```
*SONG*
COPY
```

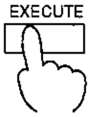
ステップ5　EXECUTE (エグゼキュート) ボタンを押します。
送り側のもっとも若いソング・ナンバーが表示されます。

```
*COPY*
FROM[   1]→
```

ステップ6　◀ ▶ (テンポ) ボタンまたはA・Eダイアルで送り側のソング・ナンバーを選びます。

```
*COPY*
FROM[   5]→
```

ステップ7　EXECUTE (エグゼキュート) ボタンを押します。



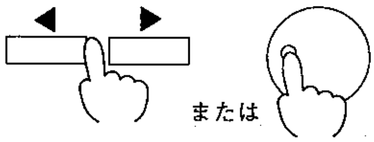

```
*COPY*
CHANGE DISK?  NO
```

ステップ 8

[◀] [▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで YES か NO を選びます。

●YES を選んだ場合
　他のディスクにコピーします。

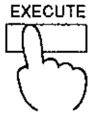
●NO を選んだ場合
　同じディスク内の別のソング・ナンバーにコピーします。




```
*COPY*
CHANGE DISK? YES
```

ステップ 9

[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
ステップ8で YES を選んだ場合はディスプレイ右下にディスクの交換の回数が表示されます。




```
*COPY*
5→TO[ 10] *  2
```

交換回数

ステップ 10

[◀] [▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで受け側のソング・ナンバーを選びます。

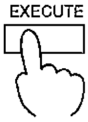
```
*COPY*
5→TO[  4] *  2
```

ステップ 11

[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
送り側の読み込みが実行されます。
実行中はEXECUTINGと表示されます。

●ステップ8でYESを選んだ場合は、読み込み後ディスプレイ右下にDが表示されます。

●ステップ8で NOを選んだ場合は、コピーが終了すると [DISK]（ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にディスク・モードが解除されます。
（ステップ12以降を行なう必要はありません）




```
*COPY*
CHANGE DISK!  D
```

ステップ 12

受け側のディスクを挿入します。

ステップ 13

[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
受け側の書き込みが実行されます。実行中はEXECUTINGと表示されます。
書き込み後、ディスプレイ右下にS が表示されます。

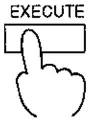
```
*COPY*
CHANGE DISK!  S
```

ステップ 14

送り側のディスクを挿入します。

ステップ 15

[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
コピーが終了するまでステップ12〜15を繰り返します。コピーが終了すると、[DISK]（ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にディスク・モードが解除されます。



第3章 パネルの設定を記憶させてみましょう

曲の途中で、鍵盤を弾きながら音色やリズムを瞬時に切り替えるのは、難しいことです。
レジストレーション・メモリーを使えば、一度記憶した操作パネルの設定がワンタッチで呼び出せます。
PV35では、7つのレジストレーションを記憶できます。

★レジストレーション・メモリーとは、トーンやリズムの選ばれているもの、またそのボリュームなどパネル状態の組み合わせを記憶させる機能です。

1. レジストレーション・メモリーの操作

1. レジストレーションを記憶させましょう

ステップ1 トーンやリズムのボタン、ボリュームなどをセットします。
レジストレーション・メモリーに記憶できるものは、以下のボタンやレバーです。
また、リバーブやトランスポーズなど、ランプがないボタンもその内容を記憶できます。

●レジストレーション・メモリーに記憶させることができるもの

(1) トーン・セクション
- (ボタン) トーン・ボタン、スプリット、コーラス
- (レバー) デュアル／スプリット・バランス、トーン・ボリューム

(2)リズム・セクション
- (ボタン) リズム・セレクト・ボタン、バリエーション、オート・フィルイン ハンド・パーカッション
- (レバー) リズム・ボリューム

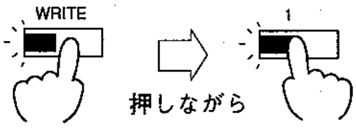
(3)オート・プレイ・アカンパニメント・セクション
- (ボタン) オート1、オート2、オート・メロディー・コード、ワン・フィンガー・アドリブ
- (レバー) コード・ボリューム、ベース・ボリューム

(4)ファンクション・セクション
- トランスポーズの状態、リバーブ・モードの状態、レフト・ペダル・アサインの状態、スプリット・ポイント

(5)その他
- アレンジメント・ナンバー、テンポ

ステップ2

WRITE （ライト）ボタンを押しながら希望するレジストレーション・ボタン（REGISTRATION 1 ～ 7）を押します。
押したレジストレーション・ボタンのランプが点灯し、セットしたパネルの状態が記憶されます。
WRITE （ライト）ボタンから指を離すと、ライト・ボタンとレジストレーション・ボタンのランプが消灯します。



★記憶させたレジストレーション・メモリーは、電源をオフにすると消えてしまいます。消したくないレジストレーション・メモリーは、ディスクに保管しておきましょう。（48 ページ参照）

2. レジストレーションを呼び出してみましょう

ステップ1

レジストレーション・ボタン（REGISTRATION MEMORY 1 ～ 7） を押します。
その番号に記憶されていたパネルの状態がセットされます。

★ボリュームなどのレバーは、値のみがセットされます。レバーの位置は変わりません。
★呼び出した後で、パネルのボタンやレバーの状態を変えることも可能です。

ステップ2

ランプの点灯しているレジストレーション・ボタンを押します。
点灯していたレジストレーション・ボタンのランプが消灯します。パネルはレジストレーション・ボタンのランプが全て消灯しているときの状態に戻ります。

★電源をオンにしたときは、レジストレーション・メモリーの内容は、ファクトリー・プリセット(工場から出荷したときの状態)になっています。

2. ディスクを使っての操作について

ディスクを使って、レジストレーションの保存など次のことができます。

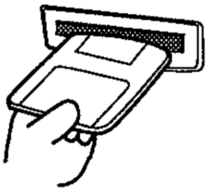
- ●セーブ（SAVE）................ディスクに保存します。
- ●ロード（LOAD）................ディスクから読み出します。
- ●リスト（LIST）...................名前を順にディスプレイに表示します。
- ●ネーム（NAME）................名前を付けたり、変更をします。

1. セーブ（SAVE）

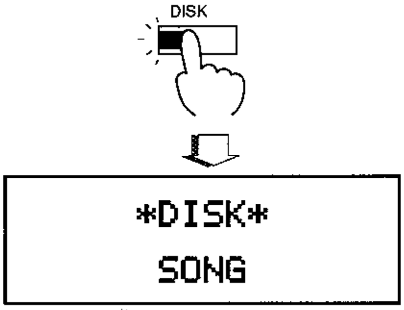
ディスクに保存します。

★レジストレーション・メモリーの保存は、7個を1組として行います。
　1個ずつの保存はできません。
★1枚のディスクに10組まで保存できます。
★ディスクのライト・プロテクトは必ずオフにしてください。
★リズム・ソフトのディスクには保存できません。

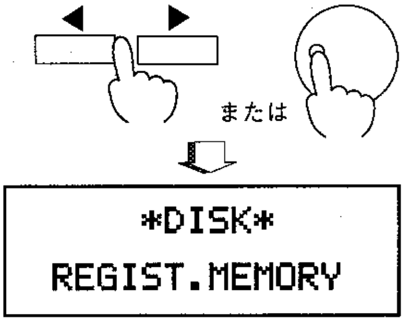
ステップ1　ディスク・スロットにディスクを挿入します。



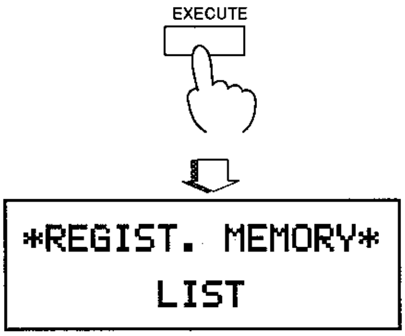
ステップ2　DISK　（ディスク）ボタンを押します。
ランプが点灯し、ディスク・モードに入ります。



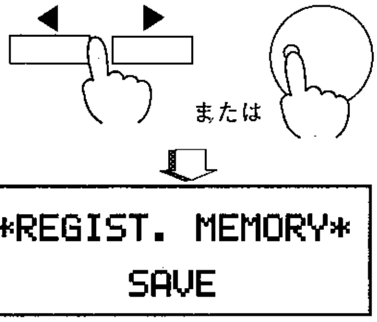
ステップ3　◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで REGIST. MEMORY を選びます。



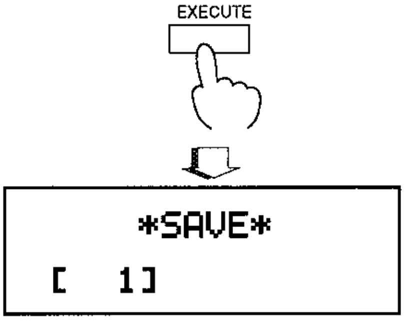
ステップ4　EXECUTE　（エグゼキュート）ボタンを押します。



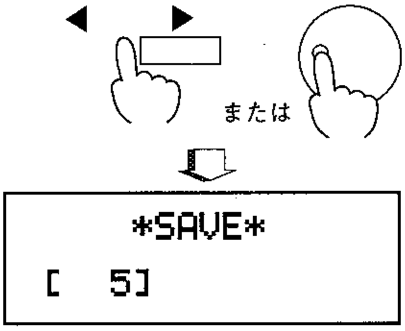
ステップ5　◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで SAVE を選びます。



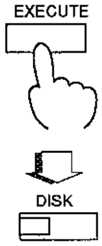
ステップ6　EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。ディスプレイにナンバーが表示されます。



ステップ7　◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルでセーブする番号を選びます。



ステップ8　EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。PV35本体のレジストレーション・メモリーの内容がディスクの選んだ番号に保存されます。保存が終わると、DISK （ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にディスク・モードが解除されます。

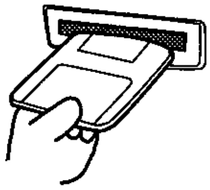


★ディスクのライト・プロテクトがオンになっていると、数秒間エラー・メッセージが表示されます。
★保存を行うと、自動的に名前が付けられます。
【例】４組目のレジストレーション......$_004
★名前は変更することができます。（40 ページ参照）
★保存を行うと、ディスクに入っていた同じ番号のレジストレーション・メモリーの内容は消えてしまいますので、ご注意ください。

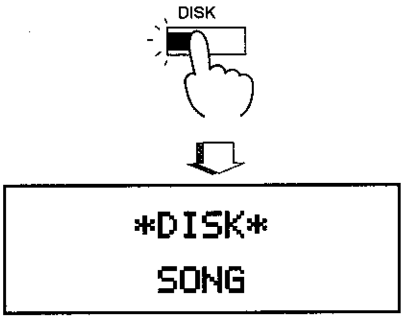
2. ロード（LOAD）

ディスクから読み出します。

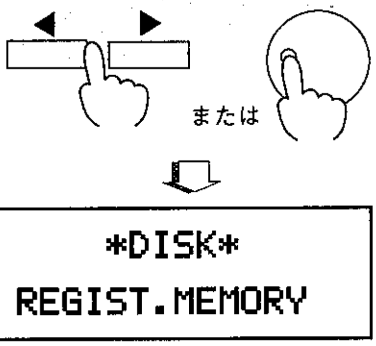
ステップ1　レジストレーション・メモリーのデータが入っているディスクをディスク・スロットに挿入します。



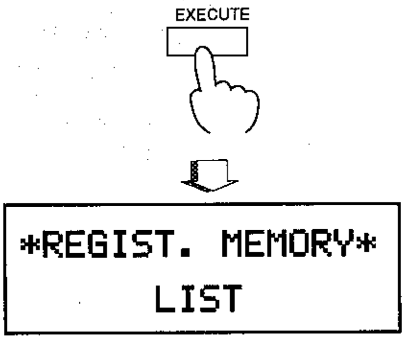
ステップ2　DISK （ディスク）ボタンを押します。
ランプが点灯します。



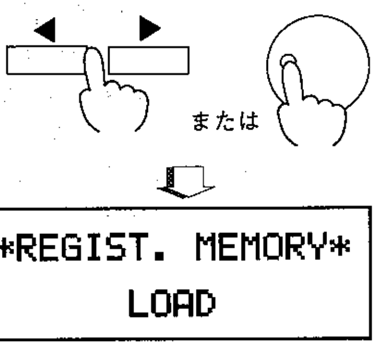
ステップ3　◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで**REGIST. MEMORY**を選びます。



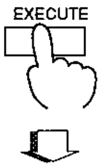
ステップ4　EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。



ステップ5　◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで **LOAD** を選びます。

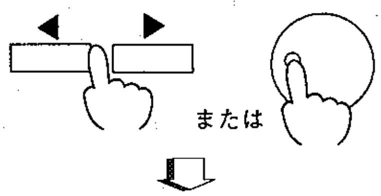


ステップ6　EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。ディスプレイにディスクに入っているもっとも若いナンバーと名前が表示されます。



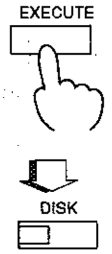
LOAD
[1] $_001

ステップ7　◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで、読み出したいレジストレーション・メモリーを選びます。



LOAD
[5] MY-REGI.

ステップ8　EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。ディスク内の、選んだレジストレーション・メモリーの内容が、本体のレジストレーション・メモリーに読み出されます。
読み出しが終わると、DISK（ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にディスク・モードが解除されます。



★ディスクからの読み出しを行なうと、本体のレジストレーション・メモリーの内容は、消えますのでご注意ください。

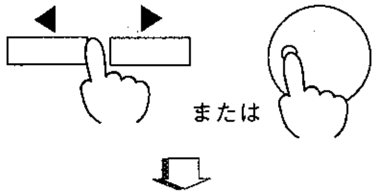
3. リスト（LIST）

名前を順にディスプレイに表示します。

ステップ1　レジストレーションのデータが入っているディスクをディスク・スロットに挿入します。

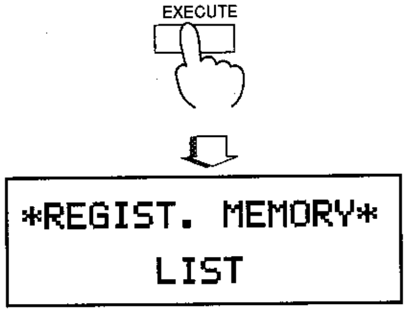
ステップ2　DISK（ディスク）ボタンを押します。

ステップ3　◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで、REGIST. MEMORYを選びます。

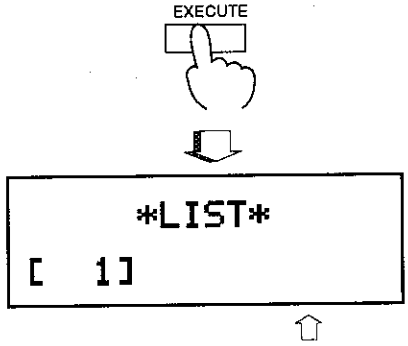


DISK
REGIST.MEMORY

ステップ4　EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。



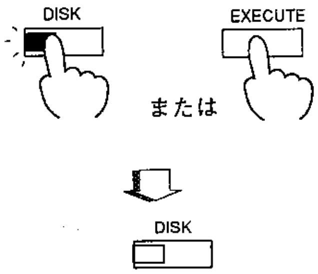
ステップ5　もう一度 EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスクに入っているレジストレーションのもっとも若いナンバーと名前がディスプレイに表示されます。



名前があればその名前も表示されます

ステップ6　◀ ▶ （テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルを回します。
ディスクに入っているレジストレーションのナンバーと名前が順に表示されます。

ステップ7　DISK （ディスク）ボタンまたは EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
DISK （ディスク）ボタンのランプが消灯し、自動的にディスク・モードが解除されます。



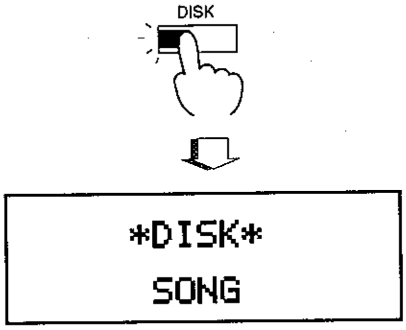
4. ネーム（NAME）

名前を付けたり変更します。

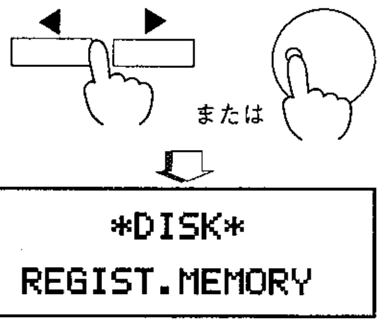
★ディスクのライト・プロテクトは必ずオフにしておいてください。

ステップ1　レジストレーション・メモリーのデータが入っているディスクをディスク・スロットに挿入します。

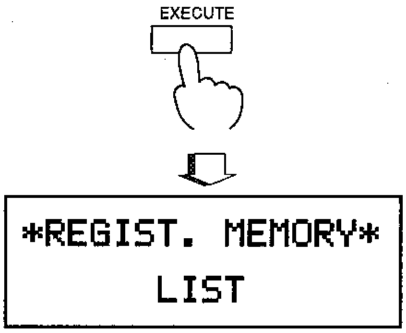
ステップ2　DISK （ディスク）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。



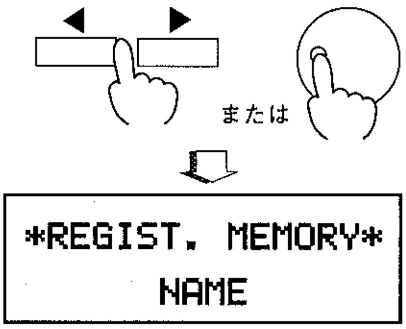
ステップ3　[◀][▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで REGIST. MEMORY を選びます。



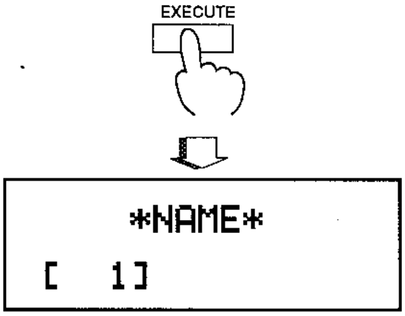
ステップ4　[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。



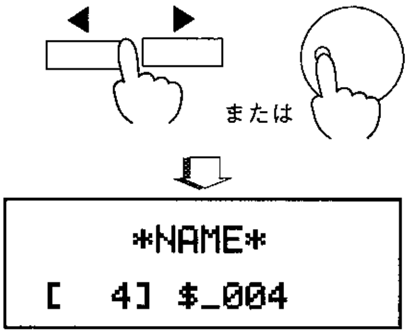
ステップ5　[◀][▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで NAME を選びます。



ステップ6　[EXECUTE]（エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスプレイに、ディスクに入っているもっとも若いナンバーのレジストレーションが表示されます。

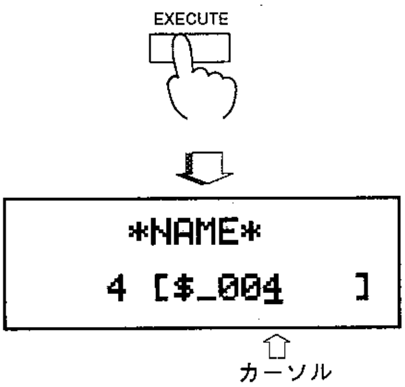


ステップ7　[◀][▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで名前を付けたいレジストレーションを選びます。



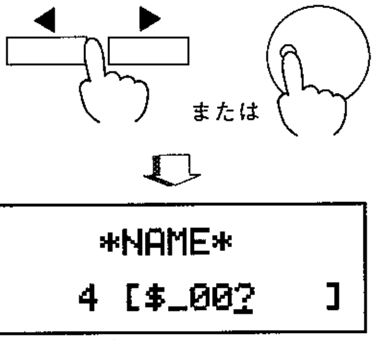
ステップ8

EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
ディスプレイにカーソルが表示されます。



ステップ9

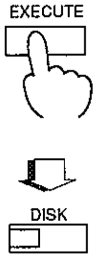
◀ ▶ (テンポ）ボタンでカーソルを動かし、A・Eダイアルを回して文字を選びます。
名前は8文字まで付けられます。
(選べる文字は 41 ページ参照)



★文字の設定を中止するときは DISK （ディスク）ボタンを押します。

ステップ10

EXECUTE （エグゼキュート）ボタンを押します。
選んだレジストレーションに名前が付けられ、
DISK （ディスク）ボタンのランプが消灯して自動的にディスク・モードが解除されます。

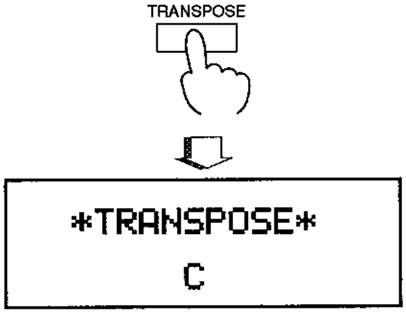


第4章 その他の機能について

1. トランスポーズ(TRANSPOSE)

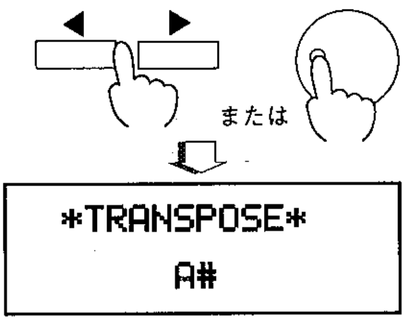
PV35には、シャープやフラットがたくさん付いている曲を弾きやすい調（キー）に移調するトランスポーズ機能があります。
トランスポーズ機能は、音程を半音単位で変化させることができます。

ステップ1　[TRANSPOSE]（トランスポーズ）ボタンを押します。
トランスポーズ・モードに入ります。
ディスプレイに現在のキーが表示されます。



ステップ2　[◀][▶]（テンポ）ボタンか、A・Eダイアルを回します。
キーが半音ずつ変化しますので、希望のキーを選びます。変化する範囲は、Cを基準にして、F#から上のFまでの1オクターブです。

F#← C → F



★ キーを選んでから鍵盤を弾くと音で確認できます。
★ 数秒間[◀][▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルが操作されないと、トランスポーズ・モードが解除されます。
★ トランスポーズで設定されたキーは、一度電源を切って再度オンにすると、Cに戻ります。

ステップ3　[TRANSPOSE]（トランスポーズ）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンを押します。
トランスポーズの設定が完了し、トランスポーズ・モードが解除されます。

2. ペダル・アサイン(PEDAL ASSIGN)

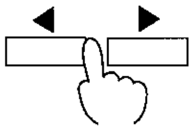
PV35では、ペダルにいろいろな機能を設定することができます。

1. レフト・ペダル（LEFT PEDAL）

ステップ1　PEDAL ASSIGN (ペダル・アサイン)ボタンを押します。
ペダル・アサイン・モードに入ります。

```
*LEFT PEDAL*
SOFT
```

ステップ2　◀ ▶（テンポ）ボタンで LEFT PEDAL（レフト・ペダル）を選びます。



ステップ3　A・Eダイアルを回して、レフト・ペダルの機能を選びます。

各機能の働きは次の通りです。

● SOFT（ソフト）
ペダルがソフト・ペダルとして働らきます。踏み込むと音色が柔らかくなり、音量も小さくなります。

```
*LEFT PEDAL*
SOFT
```

● START/STOP（スタート・ストップ）
リズムのスタートやストップがペダルでコントロールできます。

```
*LEFT PEDAL*
START/STOP
```

● INTRO/ENDING（イントロ／エンディング）
リズムが鳴っていないときに、ペダルを踏むと、イントロ・パターンが演奏されてリズムがスタートします。リズムが鳴っているときに、ペダルを踏むとエンディング・パターンの演奏後、リズムが終了します。

```
*LEFT PEDAL*
INTRO/ENDING
```

● FILL IN 1～FILL IN 3（フィルイン1～3）
リズムが鳴っているときに、ペダルを踏むとフィルイン・パターンが演奏されます。

```
*LEFT PEDAL*
FILL IN1
```

● CHORD HOLD（コード・ホールド）
自動伴奏を使って演奏しているとき、ペダルを踏むと、そのとき鳴っているコードが継続して鳴り続けます。ペダルを踏んでいる間は鍵盤でコードを押さえても、伴奏のコードは変わらないので、AUTO 2と一緒に使えば自動伴奏させながら、自由に鍵盤を弾くことができます。

```
*LEFT PEDAL*
CHORD HOLD
```

● A. EXPANDER（アレンジメント・エクスパンダー）
ペダルを踏むたびに、アレンジメント・ナンバーが次のように変わります。
1→2→3→.......6→7→8→7→6......3→2→1→2→

```
*LEFT PEDAL*
A.EXPANDER
```

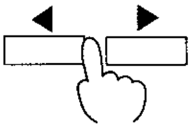
ステップ4
[PEDAL ASSIGN]（ペダル・アサイン）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。ペダル・アサインの設定が完了し、ペダル・アサイン・モードが解除されます。

★ 数秒間[◀][▶]（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルが操作されないと、ペダル・アサイン・モードが解除されます。
★ 電源オンの直後はソフトに設定されています。

2. ダンパー・ペダル（DAMPER PEDAL）

ステップ1
[PEDAL ASSIGN]（ペダル・アサイン）ボタンを押します。

ステップ2
[◀][▶]（テンポ）ボタンで、DAMPER PEDALを選びます。



ステップ3
A・Eダイアルでダンパー・ペダルの機能を選びます。

● LOWER & UPPER（ロワー&アッパー）
スプリット・モード時のアッパーとロワーの両方にダンパーをかけます。

```
*DAMPER PEDAL*
 LOWER & UPPER
```

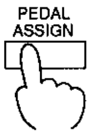
● LOWER（ロワー）
スプリット・モード時のロワーのみにダンパーをかけます。

```
*DAMPER PEDAL*
 LOWER
```

● UPPER（アッパー）
スプリット・モード時のアッパーのみにダンパーをかけます。

```
*DAMPER PEDAL*
         UPPER
```

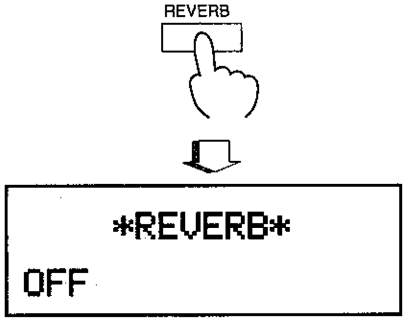
ステップ4　PEDAL ASSIGN（ペダル・アサイン）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。ペダル・アサインの設定が完了し、ペダル・アサイン・モードが解除されます。



3. リバーブ(REVERB)

PV35には、残響効果を加えるリバーブ機能があります。リバーブ機能により、音に色々な広がりや効果を持たせることができます。

ステップ1　REVERB（リバーブ）ボタンを押します。リバーブ・モードに入り、ディスプレイに現在のリバーブが表示されます。



ステップ2　◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルで設定したいリバーブを選びます。
リバーブの種類は次の通りです。

- ●ROOM（ルーム）
- ●STUDIO（スタジオ）
- ●LIVE HOUSE（ライブハウス）
- ●CONCERT HALL（コンサートホール）

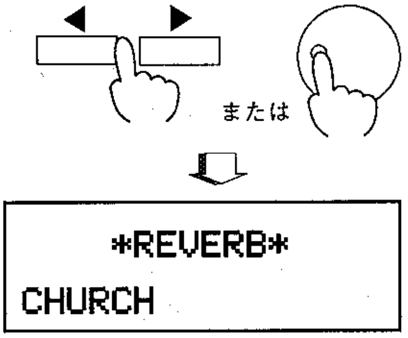
　→ ルームなどの場所での残響効果が得られます。

- ●CHURCH（チャーチ）

- ●COSMIC DELAY（コズミックディレイ）
- ●SPACE DELAY（スペースディレイ）

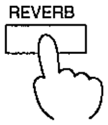
　→ 音が左右に飛び交う効果が得られます。

- ●OFF（オフ）・・・・・リバーブをかけません。



> ★数秒間 ◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルが操作されないと、リバーブモードが解除されます。
> ★電源をオフにして再びオンにするとOFFにセットされます。

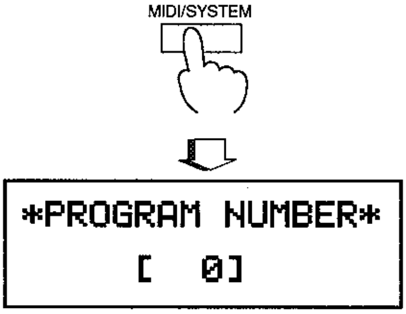
ステップ3　REVERB（リバーブ）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。リバーブが設定され、リバーブ・モードが解除されます。



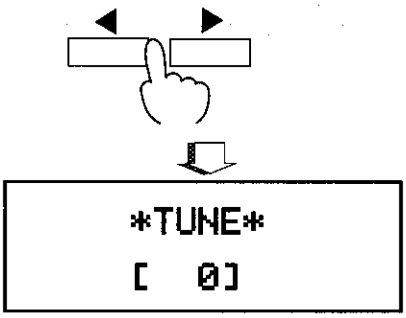
4. チューニング

音程の微調整を行います。他の楽器と音程を合わせるときなどに使用します。

ステップ1　MIDI/SYSTEM（ミディ/システム）ボタンを押します。
ミディ／システム・モードに入ります。

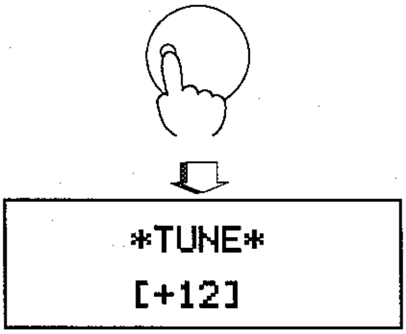


ステップ2　◀ ▶（テンポ）ボタンで、TUNE を選びます。



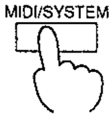
★数秒間 ◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・Eダイアルが操作されないとミディ・システム・モードが解除されます。

ステップ3　鍵盤を弾いて音を聴きながら、A・Eダイアルを回して音程を設定します。



★±50セント（100セント＝半音）の範囲で設定できます。
★設定できる数字は -32 ～ +32 です。

ステップ4　MIDI/SYSTEM（ミディ／システム）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。
チューニングが設定され、ミディ／システム・モードが解除されます。

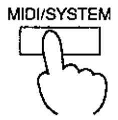


★電源をオフにして再びオンにすると、通常の音程（A3 の周波数が440HZ、表示 0 ）に戻ります。

5. チューニング・カーブのオン／オフ

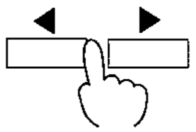
ピアノの調律曲線に沿った鍵盤の調律を設定するか、しないかの選択をします。

ステップ1　MIDI/SYSTEM （ミディ/システム）ボタンを押します。




```
*PROGRAM NUMBER*
[   0]
```

ステップ2　◀ ▶ (テンポ)ボタンを押して、TUNING CURVE を選びます。



```
*TUNING CURVE*
[ ON]
```

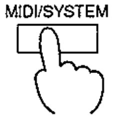
> ★数秒間 ◀ ▶ (テンポ) ボタンまたはA・Eダイアルが操作されないと、ミディ／システム・モードが解除されます。

ステップ3　A・Eダイアルで ON または OFF を設定します。

ON.............ピアノの調律曲線に沿った平均律に設定されます。
OFF............調律曲線を使わない平坦な平均律に設定されます。

```
*TUNING CURVE*
[OFF]
```

ステップ4　MIDI/SYSTEM （ミディ／システム）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。
チューニング・カーブが設定され、ミディ／システム・モードが解除されます。



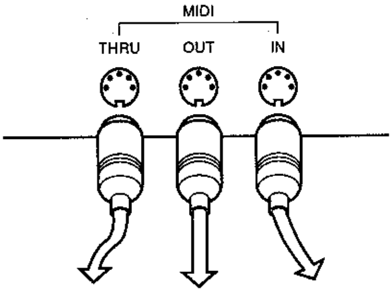
第5章 MIDI(ミディ)を使ってみましょう

1. MIDI (ミディ)の概要

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの頭文字をとった略称で、電子ピアノ、シンセサイザー、シーケンサーなどの電子楽器どうしを専用ケーブルで接続して、音楽情報をやりとりするための国際規格です。MIDIを使うと、1台の楽器を演奏して複数の楽器を鳴らしたり、シーケンサーを使用して、自動演奏をさせたり、さまざまなことができます。

1. MIDIの接続

MIDIを装備した電子楽器には、MIDI IN（イン）、MIDI OUT（アウト）、MIDI THRU（スルー）の端子を持っています（MIDI THRUの無い楽器もあります）。これらの端子に、専用のMIDIケーブルのプラグを差し込んで、楽器どうしを接続します。



- ●MIDI OUT ……………音楽情報が電気信号に変えられて、この端子から出てきます。接続する楽器のMIDI IN端子につなぎます。
- ●MIDI IN ………………他の楽器からの音楽情報の入り口です。他の楽器のMIDI OUTまたはMIDI THRU端子につなぎます。
- ●MIDI THRU …………MIDI IN から入ってきた情報を、そのままこの端子から出します。3台またはそれ以上の楽器を接続するときに使います。

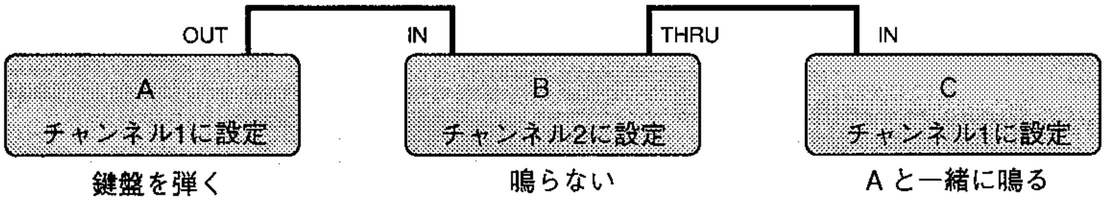
2. MIDIでできる機能

送ったり、受け取ったりする情報の種類は楽器によって異なります。PV35には、次のMIDI機能があります。

- ●送・受信チャンネルの設定
- ●鍵盤情報(どの鍵盤が押されたか)の送・受信
- ●音色切り替えの送・受信
- ●ソフト・ペダル、ダンパー・ペダルのオン／オフ情報の送・受信
- ●ソステヌート・ペダルのオン／オフの送信
- ●ローカル・コントロール（鍵盤を押しても音が出ず、MIDI信号を受信したときのみ発音する）オン／オフの設定
- ●マルチ・ティンバー・オン／オフの設定
- ●16チャンネルを同時に録音するマルチ・レック

3. MIDI チャンネルとは？

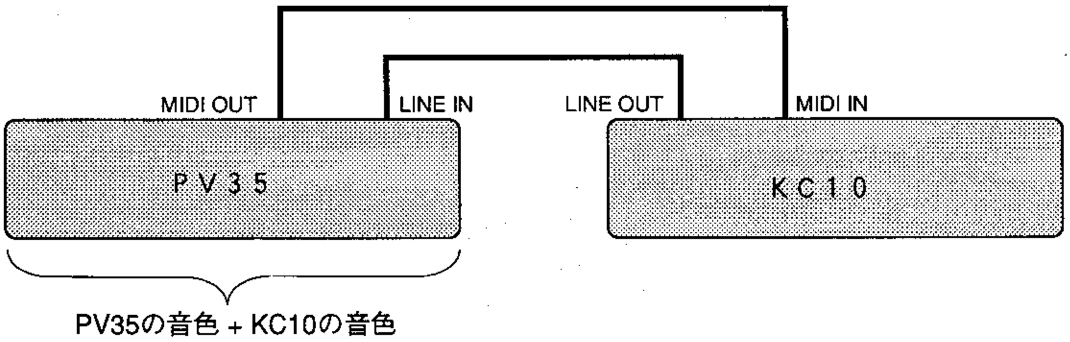
MIDI で複数の楽器を同時に演奏するために、チャンネルというものがあり、送信（信号を送る側）楽器と、受信（信号を受け取る側）楽器のお互いのチャンネルが一致していないと、情報のやりとりができません。たとえば、3台の楽器を接続して、それぞれの楽器のチャンネルを下の図のように接続した場合、楽器A の鍵盤を弾くと、楽器C も同時に鳴りますが、チャンネルの違う楽器B は鳴りません。



PV35 では、1から16までのチャンネルを設定できます。

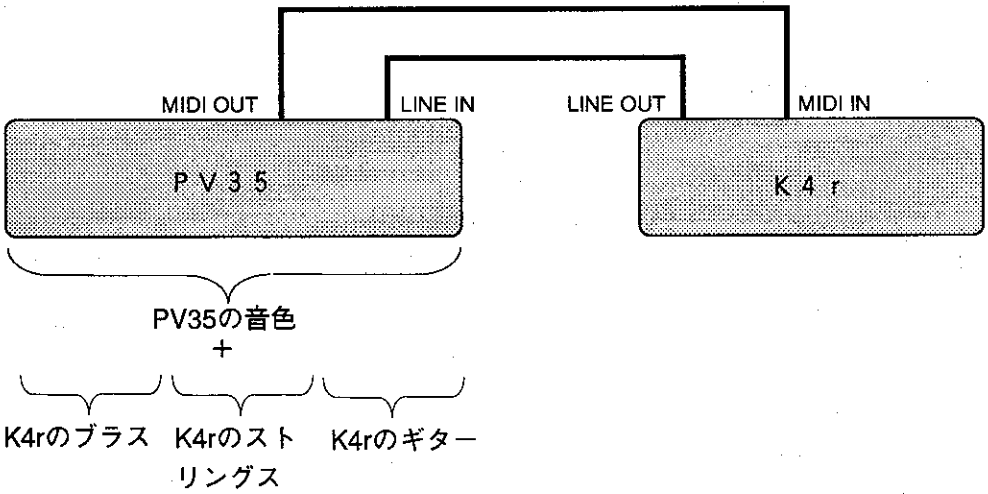
4. 実際の接続例

●他のMIDI対応キーボードとのアンサンブル
(カワイ・デジタル・シンセサイザー・K4, KC10などの使用例)



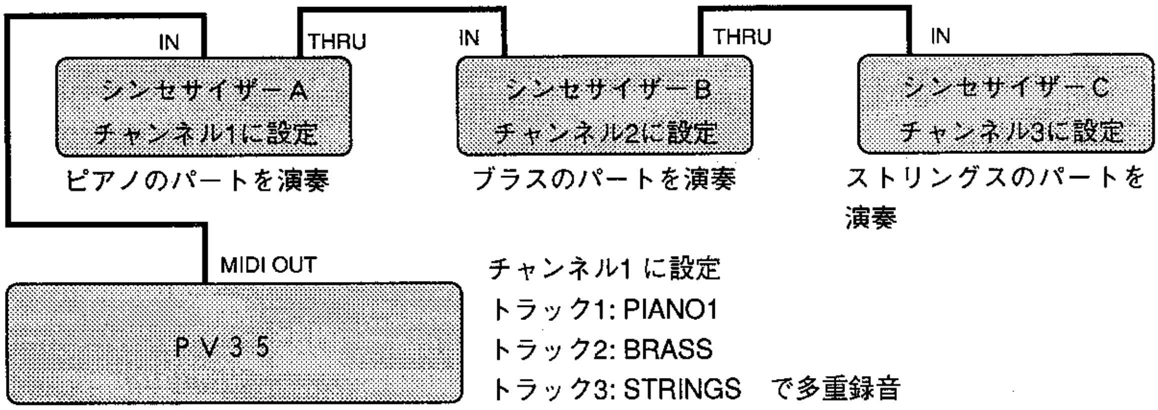
図のように接続すると、PV35で弾いた情報(どの鍵盤を弾いたか)が、そのままシンセサイザー（この場合は KC10）に送られます。さらに、シンセサイザーの LINE OUT と PV35 の LINE INを接続することにより、PV35 の音にシンセサイザーの音を重ねて鳴らせます。音色は別々に設定できますので、PV35 のピアノ音にシンセサイザーのストリングス音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫しだいで、いろいろなアンサンブルを楽しめます。また、MIDI IN と MIDI OUT の接続を逆にすれば、シンセサイザーを弾いて、PV35 から音を出すこともできます。

●シンセサイザー音源モジュールK4rとのプレイ



図のように接続すれば、前の例のような音の重ね合わせのほかに、複数の音色を鍵盤上に分割して演奏できます。この場合、K4r はマルチ・モードで3音色のマルチ音色スプリットにセットします。K4r の取り扱いについては、K4r の取り扱い説明書をお読みください。

●PV35 をシーケンサーとして使う



PV35のシーケンサー機能を使って、多重録音したそれぞれのトラックの音色に、シンセサイザーなど他の楽器の音色を重ねて、厚みのある音での自動演奏が楽しめます。
このとき、それぞれのトラックのMIDI チャンネルは次のように設定されています。

- トラック1..................1チャンネル
- トラック2..................2チャンネル
- トラック3..................3チャンネル

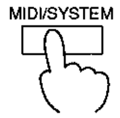
　　・　　　　・
　　・　　　　・
　　・　　　　・

- トラック16................16チャンネル

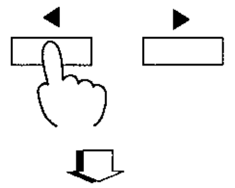
2. ベーシック・チャンネルの設定

PV35 の送・受信チャンネルを設定します。

ステップ 1　MIDI/SYSTEM （ミディ/システム）ボタンを押します。



ステップ 2　◀ ▶ （テンポ）ボタンで、BASIC CH を選びます。



```
*BASIC CH*
[  1]
```

ステップ 3　A・E ダイアルで、MIDI チャンネルを選びます。

```
*BASIC CH*
[ 16]
```

ステップ 4　MIDI/SYSTEM （ミディ/システム）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。
ベーシック・チャンネルが設定され、ミディ／システム・モードが解除されます。

★ MIDI/SYSTEM （ミディ/システム）ボタンを押した後数秒間 ◀ ▶（テンポ）ボタンまたはA・E ダイアルが操作されないと、ミディ/システム・モードは解除されます。
★ 電源オン直後は、MIDIチャンネルは 1 に設定されています。

3. プログラム・ナンバーの送・受信

プログラム・ナンバーとは、音色にそれぞれ割り当てられる番号です。

■ トーン・ボタンでのプログラム・ナンバーの送・受信

PV35 では、各トーン・ボタンに下の表のプログラム・ナンバーが設定されており、演奏中にトーン・ボタンを押すと、割り当てられたプログラム・ナンバーが送信され、接続されているMIDI楽器の音色も対応するプログラム・ナンバーに切り替わります。
PV35 が受信側になっているときは、送信側の音色が切り替えられたときに、PV35の音色も同じプログラム・ナンバーに切り替わります。

●PV35の各トーン・ボタンのプログラム・ナンバー

(1)パネル音色

トーン・ボタン	プログラム・ナンバー
PIANO 1	0
PIANO 2	1
E. PIANO 1	3
E. PIANO 2	4
JAZZ ORGAN	8
FULL ORGAN	11
HARPSICHORD	16
CLAVI	19
ACOUSTIC GUITAR	22
JAZZ GUITAR	23
SYNTH. BASS	28
VOICE ENSEMBLE	34

トーン・ボタン	プログラム・ナンバー
STRING ENSEMBLE	48
WOOD BASS 1	64
WOOD BASS 2	65
ELECTRIC BASS 1	66
ELECTRIC BASS 2	67
SLAP BASS	68
FLUTE	72
SAX	80
TUBA	94
BRASS	95
VIBRAPHONE	97

(2)伴奏音色（受信のみ）

音色名	プログラム・ナンバー
Piano	2
E. Piano	5
Chorus E. Piano	6
Honky Tonk Piano	7
Jazz Organ	9
Chorus Jazz Organ	10
Full Organ	12
Chorus Full Organ	13
Accordion	14
Chorus Accordion	15
Harpsichord	17
Chorus Harpsichord	18
Clavi	20
Chorus Clavi	21
Bright Brass	24
Chorus Bright Brass	25
Distorted Guitar	26
Chorus Dist. Guitar	27
Synth. Bass	29
Chorus Synth. Bass	30
Chorus Slap Bass	31

音色名	プログラム・ナンバー
Warm Strings	32
Chorus Warm Strings	33
Voice Ensemble	35
Chorus Voice Ens.	36
Chorus Jazz Guitar	37
Jazz Guitar	38
Chorus Banjo	39
Chorus Bell	40
Hard Electric Bass	41
Chorus Hard E. Bass	42
Soft Electric Bass	43
Chorus Soft E. Bass	44
Chorus Tuba	45
Click	46
Chorus Click	47
String Ensemble	49
Chorus String Ens.	50
Pizzicato Strings	51
Violin	52
Chorus Violin	53
Soft Wood Bass	54

音色名	プログラム・ナンバー
Chorus Soft W. Bass	55
Chorus Pizz. Strings	56
Acoustic Guitar	57
Chorus Acoustic Guitar	58
Folk Guitar	59
Chorus Folk Guitar	60
Cutting Guitar	61
Chorus Cutting Guitar	62
Banjo	63
Slap Bass	69
Hard Wood Bass	70
Chorus Hard Wood Bass	71
Flute	73
Chorus Flute	74
Mute Trumpet	75
Chorus Mute Trumpet	76
Chorus Tight Brass	77
Sax	78
Chorus Sax	79
Tuba	81

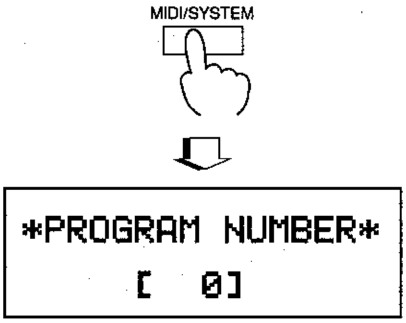
音色名	プログラム・ナンバー
Clarinet	82
Chorus Clarinet	83
Oboe	84
Chorus Oboe	85
Harmonica	86
Chorus Harmonica	87
Trumpet	88
Chorus Trumpet	89
Trombone	90
Chorus Trombone	91
Horn	92
Chorus Horn	93
Tight Brass	96
Vibraphone	99
Bell	100
Synth. Glocken	101
Chorus Synth. Glocken	102
Marimba	103
Chorus Marimba	104

★伴奏音色のプログラム・ナンバーを受信したときは、マルチ・ティンバー音色のみが変わります。（マルチ・ティンバーについては68ページ参照）
★105以上のプログラム・ナンバーは受信しません。

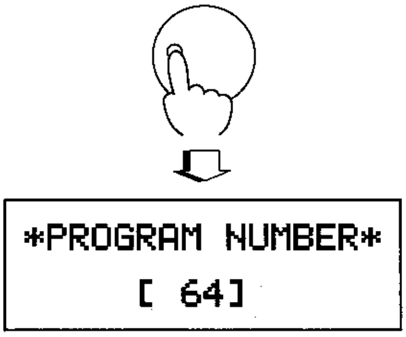
■ A・Eダイアルによるプログラム・ナンバーの送信

PV35では、トーン・ボタンの切り替えによるプログラム・ナンバーの送信の他に、A・Eダイアルを使って、0から127までの任意のプログラム・ナンバーを送信できます。

ステップ1　MIDI/SYSTEM（ミディ/システム）ボタンを押します。

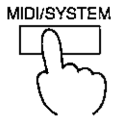


ステップ2　A・Eダイアルで送信したいプログラム・ナンバーを選びます。



ステップ3　EXECUTE（エグゼキュート）ボタンを押します。
選ばれたプログラム・ナンバーが送信されます。

ステップ4　MIDI/SYSTEM（ミディ/システム）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。
ミディ/システム・モードが解除されます。



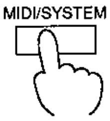
★数秒間何も操作が行われないと、ミディ／システム・モードが解除されます。

4. マルチ・ティンバー・モードの設定

マルチ・ティンバー・モードは、PV35 で複数のMIDIチャンネルを同時に受信して、それぞれのチャンネルに対応した、異なる音色を同時に鳴らす機能です。この機能を使って、Q - 80 などのシーケンサーを接続して、1台のPV35 で複数の音色によるアンサンブル演奏が可能になります。

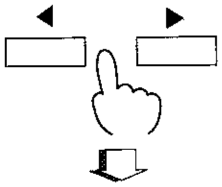
ステップ1

MIDI/SYSTEM（ミディ/システム）ボタンを押します。



ステップ2

◀ ▶（テンポ）ボタンで MULTI TIMBRE を選びます。



```
*MULTI TIMBRE*
[ ON]
```

ステップ3

A・E ダイアルを回します。
ON またはOFF を 選びます。

```
*MULTI TIMBRE*
[OFF]
```

● OFF

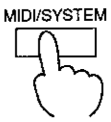
ベーシック・チャンネルで設定された MIDI チャンネルでMIDI情報を受信すると、その音楽情報がPV35 から鳴ります。

● ON

パネルでどの音色が選ばれていても、受信したMIDIチャンネルに対応して、69 ページの表の音色が鳴ります。

ステップ4

MIDI/SYSTEM (ミディ/システム)ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。
マルチ・ティンバー・モードが設定され、ミディ／システム・モードが解除されます。



マルチ・ティンバー・モードがONに設定されていると、パネル上でどの音色が選ばれていても、受信したMIDIチャンネルに対応して、下の表の音色で鳴ります。

チャンネル	音色	チャンネル	音色
1	PIANO1	9	VOICE ENSEMBLE
2	PIANO2	10	HAND PERCUSSION
3	E. PIANO 1	11	STRING ENSEMBLE
4	CLAVI	12	ACOUSTIC GUITAR
5	JAZZ ORGAN	13	FLUTE
6	FULL ORGAN	14	WOOD BASS1
7	HARPSICHORD	15	ELECTRIC BASS 1
8	VIBRAPHONE	16	SLAP BASS

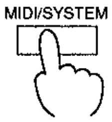
ただし、それぞれのチャンネルでプログラムチェンジを受信すると、そのプログラム・ナンバーに対応した音色で鳴ります。プログラム・ナンバーと音色名の関係は、65ページの表の通りです。

5. ローカル・コントロール・オン/オフの設定

ローカル・コントロールとは、鍵盤を弾いたときに音を出すか出さないかを選択する機能です。
オフになっていると、PV35 の鍵盤を弾いても何も音は出ずに、MIDI で鍵盤情報を受信したときのみ発音します。

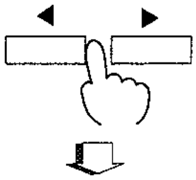
ステップ 1

[MIDI/SYSTEM]（ミディ/システム）ボタンを押します。



ステップ 2

[◀][▶]（テンポ）ボタンでLOCAL CONTROLを選びます。



```
*LOCAL CONTROL*
     [ ON]
```

ステップ 3

A・Eダイアルを回します。
ON またはOFF を 選びます。

● ON

鍵盤を弾いたときも、MIDI 情報を受信したときも音が出ます。

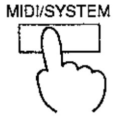
● OFF

鍵盤を弾いたときは音が出ずに、MIDI 情報を受信したときのみ音が出ます。

```
*LOCAL CONTROL*
     [OFF]
```

ステップ 4

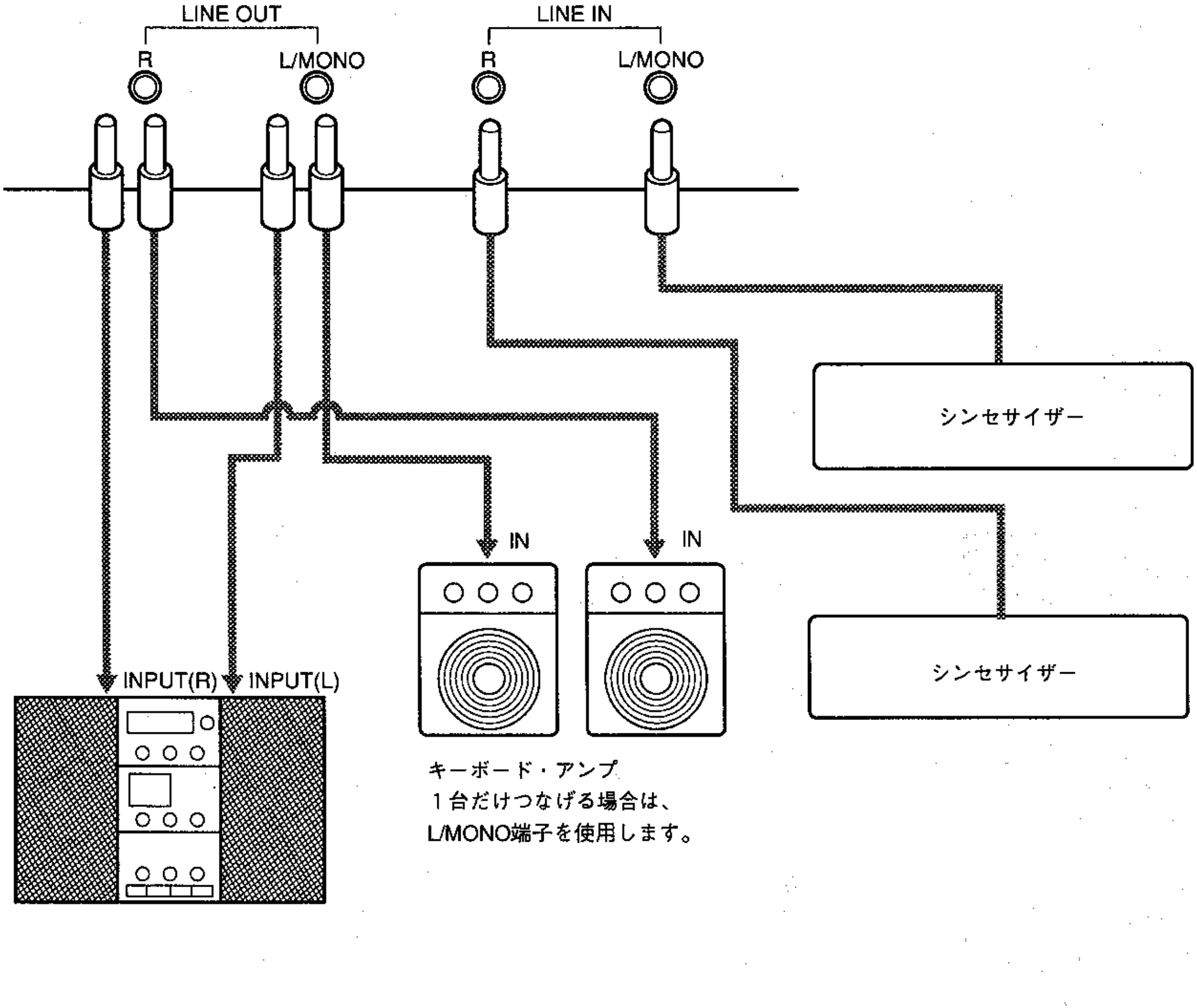
[MIDI/SYSTEM]（ミディ/システム）ボタン、トーン・ボタン、またはリズム・ボタンのいずれかを押します。
ローカル・コントロール・オン/オフが設定され、ミディ/システム・モードが解除されます。



付　　録

1.他の機器との接続

PV35 には、LINE IN と LINE OUT 端子が装備されています。
外部スピーカーや、ご家庭のオーディオ・セットにつないで大きな音で演奏する場合は、LINE OUT 端子を、また、他のシンセサイザーなどの音をPV35内蔵のスピーカーで鳴らす場合は、LINE INを使用します。
これらの端子はステレオになっていますが、モノラルで使用する場合は、L/MONO 端子をお使いください。

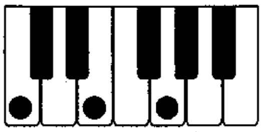


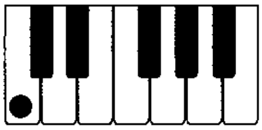
キーボード・アンプ
１台だけつなげる場合は、
L/MONO端子を使用します。

2. コード・フォーム

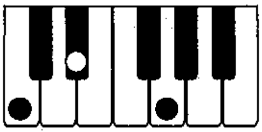
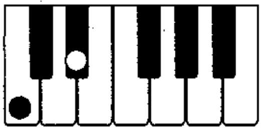
自動伴奏時のコード判別は下のようになります。
ここではCをルート（根音）としたコードを説明します。

■ C

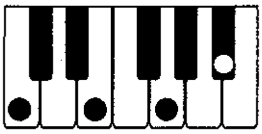
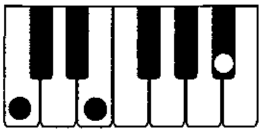
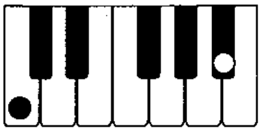

または

または


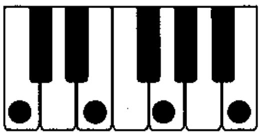
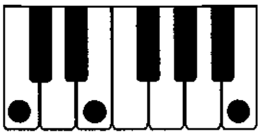
■ Cm


または


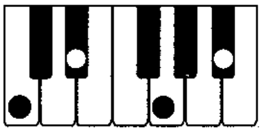
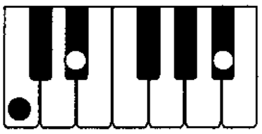
■ C7


または

または


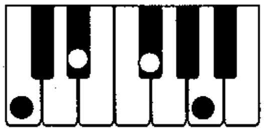
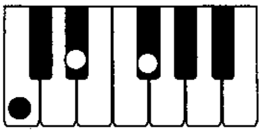
■ CM7


または


■ Cm7

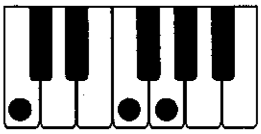

または


■ Cdim

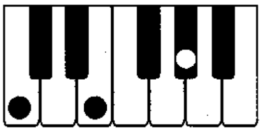

または


■ C9

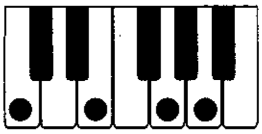
■ Csus4



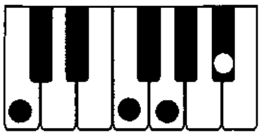
■ Caug



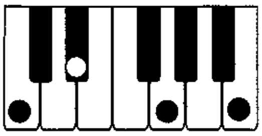
■ C6



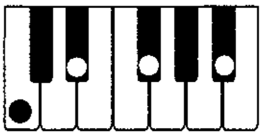
■ C7sus4



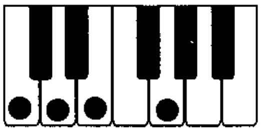
■ CmM7



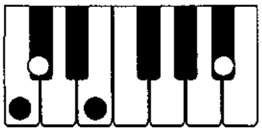
■ Cm7-5



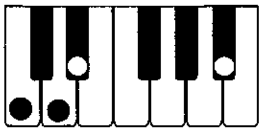
■ Cadd9



■ C-9



■ Cm9



3. こんな場合は故障ではありません

症　状	原　因	対　処
音が出ない、小さい	ボリュームが min. に設定されている。	マスター・ボリュームや、トーン、リズム、コード、ベースの各ボリュームを適当にセットしてください。
	ヘッドフォンが差し込まれている。	スピーカーから音を出すときはヘッドフォンを抜いてください。
	ボリュームがmin.に設定されているレジストレーションやソングを読み込んだ。	ボリュームを動かすと、設定されているボリュームの値が解除されます。
	ローカル・コントロールがオフに設定されている。	ローカル・コントロールをオンに設定してください。（70 ページ）
	ディスクのフォーマット中	フォーマットが終わるまで待ってください。
デュアル・モードやスプリット・モードでひとつの音色しか鳴らない。	DUAL/SPLIT BALANCE（デュアル/スプリット・バランス）レバーが片側に寄っている。	DUAL/SPLIT BALANCE（デュアル/スプリット・バランス）レバーを中央にセットしてください。
ワン・フィンガー・アドリブまたはオート・メロディー・コード機能が働かない。	ワン・フィンガー・アドリブとオート・メロディー・コードを同時に使おうとしている。	ONE FINGER AD-LIB と AUTO MELODY CHORD は同時に使用できません。
	スプリット・ポイントが、弾いている鍵盤より右側に設定されている。	スプリット・ポイントを正しい位置に設定してください。（19 ページ）
レジストレーションが保存できない。（RHYTHM LOAD以外選べない）	リズム・ソフトを使用している。	ソング用のディスクを使用してください。
MIDI/SYSTEM、SONG SELECT、DISKモードに入れない。	他のモードになっている。	現在のモードを終了してから、各モードに入ってください。
ディスクに録音できない。ディスクの内容を削除やコピーができない。	ディスクのライト・プロテクトがオン（書き込み不可）になっている。	ライト・プロテクトをオフ（書き込み可能）にしてください。
ハンド・パーカッションの録音ができない。	トラック１０以外の録音トラックを使用している。	トラック１０に録音してください。
MIDI で鳴らない。	送信側と受信側の MIDI チャンネルが一致していない。	送信側と受信側を同じ MIDI チャンネルに設定してください。

4. エラー・メッセージ

ディスクに情報が書き込めないときや異常がある場合に、次のようなメッセージが表示されます。

エラー・メッセージ	原因
PROTECTED!	ディスクのライト・プロテクトが書き込み不可（オン）になっています。書き込み可（オフ）にしてからもう一度処理を実行してください。
DISK FULL!	新たに書き込もうとしたデータが、ディスクの空き容量より大きいため、書き込めません。 新しいディスクに書き込んでください。
DISK ERROR!	ディスクがフォーマット(初期化)されていないか、ディスクにキズやホコリが付いていて使用できません。フォーマットするか、新しいディスクを使用してください。
NO DATA!	ディスクの中に実行すべきデータがありません。 正しいディスクを使用してください。

■索　引

あ行

アッパー鍵盤 14, 19
アレンジメント・エクスパンダー 11,57
アレンジメント・エクスパンダー・ダイアル 11
アレンジメント・ナンバー 4
移調 55
イントロ・エンディング 7, 56
オート・アカンパニメント 9
オート・フィルイン 8
オート・メロディー・コード 14

か行

コード・フォーム 72
コード・ホールド 57
コーラス 5
コピー 39, 43

さ行

自動伴奏 9
シンク・イントロ 7
シンクロ・スタート 7
スタート／ストップ 6, 56
スプリット・ポイント 9, 19, 20
スプリット・モード 19
設定できる文字 41
セーブ 48
セント 59
ソフト 56
ソング 21, 23
ソング・セレクト・モード 23

た行

多重録音 35
ダンパー・ペダル 57
チューニング 59
チューニング・カーブ 60
調律曲線 60
ディスク・ライブラリー 21, 27
ディスク・リズム 21, 25
デュアル・モード 18
デリート 39, 42
テンポ 4
トラック 27, 35, 38
トランスポーズ 55

な行

ネーム 39, 40, 48, 52

は行

早送り 24
早戻し 24
バリエーション 6
ベーシック・チャンネル 64
ペダル・アサイン 56
ハンド・パーカッション 15, 35
フィルイン 8, 36
フォーマット 27
ブリリアンス 5
プログラム・ナンバー 65

ま行

マルチ・ティンバー・モード 68
マルチ・レック 37
メモリー・プロテクト 22

ら行

リスト 39, 48, 51
リズム 6
リバーブ 58
リピート 23
レジストレーション・メモリー 21, 46
レフト・ペダル 56
ローカル・コントロール 70
ロード 48
ロワー鍵盤 9, 14, 19

わ行

ワン・フィンガー・アドリブ 12

アルファベット

A・Eダイアル 10
AUTO FILL IN 8
BRILLIANCE 5
CHORD HOLD 57
COPY 39, 43
DAMPER PEDAL 57
DELETE 39, 42
DISK ERROR 74
DISK FULL 74
FF 24
FILL IN 8, 56
INTRO / ENDING 7, 56
LEFT PEDAL 56
LIST 39, 48, 51
LOAD 48
MIDI 61
MIDIチャンネル 62
NAME 39, 40, 48, 52
NO DATA 39, 74
PROTECTED 74
REPEAT 23
REVERB 58
REWIND 24
SAVE 48
SOFT 56
START / STOP 6, 56
SYNC. START 7

■主な仕様

鍵　盤	88鍵
発音数	最大32音
音　色	ピアノ1・2、エレクトリック・ピアノ1・2、クラビ、ジャズ・オルガン、 フル・オルガン、ハープシコード、ビブラフォン、アコースティック・ギター、 ジャズ・ギター、フルート、サックス、ボイス・アンサンブル、 ストリング・アンサンブル、ブラス ロワーのみ：ウッド・ベース1・2、エレクトリック・ベース1・2、スラップ・ベース シンセ・ベース、チューバ
リズム	ポップス、ディスコ、16ビート、ロックンロール、シャッフル、カントリー、 スイング、バラード、サンバ、ボサノバ、ワルツ、マーチ、ディスク1～4 スタート／ストップ、フィルイン1～3、イントロ／エンディング、シンクロ・スタート、 オート・フィルイン、バリエーション
効　果	ブリリアンス、コーラス、リバーブ（ルーム、スタジオ、ライブ・ハウス、 コンサート・ホール、チャーチ、コズミック・ディレイ、スペース・ディレイ）
ディスク	録音（16トラック）、再生、早送り、早戻し、リスト、ネーム、デリート、コピー
ボリューム	マスター・ボリューム、トーン・ボリューム、リズム・ボリューム、コード・ボリューム、 ベース・ボリューム、デュアル／スプリット・バランス
その他の機能	オート・アカンパニメント、オート・メロディー・コード、ワン・フィンガー・アドリブ、 デュアル、スプリット、ハンド・パーカッション、レジストレーション・メモリー、 トランスポーズ
ペダル	レフト・ペダル（ペダル・アサイン機能により、ソフト、スタート・ストップ、イントロ・ エンディング、フィルイン1～3、コード・ホールド、アレンジメント・エクスパンダー機能 の割付が可能）、ダンパー・ペダル（アッパー＆ロワー、ロワー、アッパー）
外部端子	ヘッドフォン、MIDI (IN、OUT、THRU)、LINE IN (L/MONO、R)、LINE OUT (L/MONO、R)
出　力	30W×2
スピーカー	16cm×2、5cm×2
定格電圧	AC100V、50／60Hz
消費電力	70W
仕上げ	コスモブラック
寸法(WxDxH)	143×57×86cm
重　量	73.6（スタンド含む）Kg
附属品	譜面立て、再生操作シート1、フロッピー・ディスク（ソング、リズム）1、楽譜1
オプション	椅子

Date: June 1991
Version: 1.0

[KAWAI DIGITAL PIANO]

Model PV35 MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション....		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ＯＮ時 設定可能	1 1 - 16	1 1 - 16	
モード	電源ＯＮ時 メッセージ 代　用	3 × * * * * * * * * * *	1 1,3** ×	**電源オン時オムニ・オン。MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	 音　域	21 - 108* * * * * * * * * * *	0　-127 15 - 113	
ベロシティー	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH V=1-127 × 9nH　v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	○	
コントロール チェンジ	7 64 66 67	○ ○（右ペダル） ○（左ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ × ○	ボリューム ダンパー ソステヌート ソフトペダル
プログラム チェンジ	 設定可能範囲	○　（0 - 127） * * * * * * * * * *	○（0 - 104）	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	:ソングポジション :ソングセレクト :チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	:クロック :コマンド	○ ○	○ ○	
その他	:ローカル ON/OFF :オール・ノート・オフ :アクティブセンシング :リセット	× ○ ○ ×	○ ○ ○ ×	
備　考		* 15 - 113 トランスポーズによって変化する。		

モード１：　オムニ・オン、ポリ　　モード２：　オムニ・オン、モノ　　○：あり

モード３：　オムニ・オフ、ポリ　　モード４：　オムニ・オフ、モノ　　×：なし

KAWAI

本社　〒430　静岡県浜松市寺島町２００番地　TEL. 053-457-1277

9106M